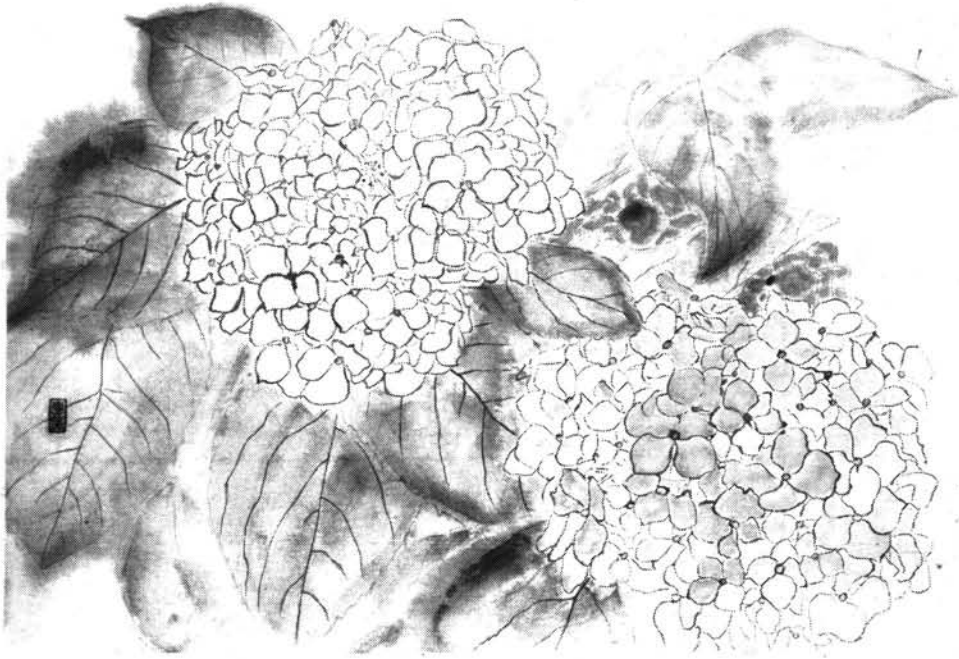


あしふ

135号

1975 5・6

合併号



もくじ

【特集】

アンケート（回答1〜回答40）…………… 2

【社会の窓】

私と国際婦人年……………辻 幸子 19

最近気になる事……………小川 倍恵 22

めばる（私のまわりのPTA）平山久子 22

蝶と野鳥を呼ぶ木……………高橋ミチコ 23

【お便り】

野波志津子…………… 8

小川 倍恵…………… 23

平山 久子…………… 24

表紙絵の言葉……………平田恵美子 21

編集後記……………高木由利子 24

例会の御案内…………… 12

ア　ン　ケ　ー　ト

わいふ創刊当時（昭和38年10月）から

現在までのあなたの生活の変化について――

- ①年令（現在の）
- ②家族構成の変化
- ③職歴の変化
- ④住所変化の有無・回数・理由など
- ⑤身体的変化（体重・視力など）
- ⑥読書傾向の変化
- ⑦12年間において、一番印象に残った私的な出来事と、社会的な出来事を各一つずつ
- ⑧12年間で、自分が一番変わったと思われる面と、全く変っていないと思う面について
- ⑨12年前、一番望んでいたことと、その結果
- ⑩今、一番望んでいることと、その展望
- ⑪「わいふ」との出会いはいつで、そのきっかけは？
- ⑫「わいふ」に入会して良かった点について
- ⑬「わいふ」から影響を受けた点があれば具体的に
- ⑭「わいふ」廃刊後のあなたの計画は？
- ⑮もし「わいふ」のような雑誌を、今後続けていこうという方があった場合、誌代の値上げ、その他の悪条件がかりにあってても参加する意志がありますか。

【回答1】（回答は到着順）

- ①50才
- ②長男21才、結婚して6月に孫出生の子定
- ③高槻市婦人団体の副会長、三年目を迎える（職歴ではないが）
- ④新聞の字が読みづらくなって、眼鏡を付けていても……。血圧があがったりさがったり。
- ⑤週刊誌はよまない（若い時はよくよみました）。少し固い本を好んで読むようになったのは、指導的立場にあるためか。
- ⑥「わいふ」の集いで仁川団地の集会所で初めて会員の皆さんにお出会いたとき、自己紹介さえ満足に出来ず赤面したことが奮起するきっかけとなり、婦人団体でも進んで参加して自分をきたえるようにして、現在では人前に立つても赤面することなく話が出来るようになりました。
- ⑦私の本箱はガリ印刷のわいふが赤ちやけた色に変色しても行儀よく並んでいます。出合いは忘れませんが、ガリ印刷の時代で、読み手ばかりですが、なつかしい思い出です。
- ⑧わいふを通じて三矢久子さんに現在でも文通をしています。写真で今年の四月にお顔を拝見しました。歌をつくって私をほげまして下さったり、家庭境遇が似ている点で意気投合するのでしょうか。三矢さんの文を読みますと目前で話し合っているように感じます。
- ⑨気軽に書けた「わいふ」、気がくよくよめた「わいふ」、一足とびに飛躍することなく続けてほしかった。物足りないようなという言葉も聞いたとき、何かにぶつかるとはなかったのかと、廃刊になることのみが気がかりです。

【回答2】

- ①37才
- ②息子3人ふえて5人になる。
- ③共稼ぎ四年、育児と両立出来ず退職、以後7年主婦専業。
- ④3回、夫の仕事に依って。
- ⑤体重増え悩みの種、白髪がポツポツふえてきた事。体力劣ってきたのでは？
- ⑥小説・随筆・紀行（一般的にフィクションもの）↓社会科学もの、歴史もの
- ⑦12年前アメリカの大統領ケネディが暗殺された日が、結婚式の朝だったので印象が深い。
- ⑧国内ではS48年末から石油ショックに続くインフレの波↓生活圧迫
○私的な出来事は平凡ですが出産、育児の経験。
- ⑨以前は自分中心で小児的であったと思う。今も変わっていないのかも知れないが、少しは大人になろうと努めようとしている事、性格的には明朗さを欠いてきたとも言えるし、がまん強くなつたとも言える。行動的でない事は全く変っていない。
- ⑩漠然と或は漫然と結婚に夢をかけていた。その結果かどうかわからないが、今望むことは2つ
○経済力をつける事

○社会科学（特に婦人問題）の研究の師を得たい事。

⑩S 48年12月、アサヒ新聞の家庭欄における紹介から122号から愛読させていただいています。

⑪○私の一方的なものです、良き先輩を得たということ。

○128号編集後記の鈴木さんがおっしゃっているように、素人が意見を發表できる場は極く限られている。自由に發表できる場「わいふ」を持つ事が貴重であること。

⑫この十月で廃刊になること。欲を言えば、134号亀山さんがおっしゃっているように「反応や議論がなさすぎることにきれいことすぎる……」という点、私も同意見です。

⑬○一にも二にも「書く」という事を身近なものとしようとする事、その為に思考の整理というか、興味の対象への観察というか、いろんな点で考えなければいけないという態度になろうとすること。

○眠ったような、生きていのか死んでいるのかわからないような日々ではなく、私にとつてのワンステップ、ワンアクションであり得る事。

⑭女の38度線をうろついております。平均寿命のやつと半分まできたかという思いと、もう半分しかないという迫つた思いとの間を。

四十代五十代の生き方をさめるスタートにつかねばおそい事を自覚しつつも、ただ低迷している。就学前の幼児がいるので、入学した時点で、職業訓練を

受けようと思つている。

⑮あります！
市井の素人の主婦が築き、つくりあげてきた十年余の「わいふ」の命脈を守る事を希望します。

★

【回答3】

①32才

②結婚により夫、夫の母、その後一男一女に恵まれ、現在5人家族。

③O.L生活6年間

結婚後はもっぱら主婦業。昭和49年11月から自宅にてペーパーシッター業をはちはち始める。

④結婚の為夫の家へ同居現在に至る。

⑤独身時代45kg

出産後50kg

現在47kg

体重は大大以前にもどつたが、顔のたるみと大きくなったヒップはどうしようもない。

⑥子供が出来てからは新聞にざつと目を通すのがやつと。しかし今年から二年計画で「徳川家康」を完読しようと呼張っている。

⑦私的な出来事では長女の出産には深く感動した。親が子供の成長に力を尽すのは当りまえだが、子供が私の成長を助けてくれたと思う。

⑧自分では多少、大人になったと思うが、人様が変わつたと言われる程変わる事はむづかしい。

⑨家族が健康で幸であること。妻であり母であると共に社会人でありたい。とにかく、仕事がしたい。一生を通

じて打ち込める生きがいとなる仕事があった。朝日新聞の記事を読み、これはいけると思つた。品のない言い方ですみません。

⑩ぬるま湯につかっている様な主婦業にとつては、さわやかな刺激になりました。

⑪例会にもつと出席して生の「わいふ」にふれたかつた。これは私の不精のせいですが。

⑬なし

⑮一部の人々の奉仕的活動は美しいと思うが、それに甘えてはならないと思う。十年余も続けられたわいふの編集部の皆様には頭の下る思いです。わいふを続ける事が出来たらどんな協力もおしみます。

★

【回答4】

①40才

②次男が生れ4人になりました。

③無職の為ございません。

④3回。集団社宅↓一戸建社宅↓公社分譲アパート（抽選に当つたから）

⑤持病の少しずつ悪化、入院など、にも抱らず体重は少し全体的に増していること。持病が足だけだつたのが腕、手指に拡がつたこと。

⑥只々乱読の為変化はないと思います。強いて言えば息子の面白がるものを持つたま読んでみようと思う事でしょうか。

⑦社会的にあり過ぎて困ります。
○浅間山荘事件 ○ハイジャック ○ノーベル平和賞キッシンジャー、佐藤受賞への疑問 ○ベトナム ○三島・川端 ○公害

私的の弟の病死
⑧年令を重ねた厚釜しき（本人の表現）自分では変つたと思うのですが、本人外からは否、昔からシンゾーツヨカタ、と言われるので付記します。

直情軽行、無分別、お人好し、変りません。変つたのは子供が育つた事により、御近所との交際を或程度迄に自分で抑えられ、他人から時間的に（特に嫌な人から）侵される事が少なくなつた事。だらしなくなつた事。



⑨自分の時間を持ちたかつた事

持病（リウマチ）がなくなる事。時間は子供が育つて、持てるようになってしまつたが、持病は持続している為、それがしばしば家事をさばつた上に生じている現実を家族に申し訳なく、我儘を反省しています……。

今の望みは持病がなくなる事、家族の健康。

⑩吹田市古江台の久代節子さんが年来の友人で、矢崎さんの連載物を「読んでみる？」とまとめて彼女の御近所の方から借りて下さつた時。十数冊でしたが、

一時に見せて戴きましたので、矢崎さん外の物はちら／＼としか読めませんでした。とても佳い印刷・紙質に感心させられたのを覚えています。

①会員の方々の存在を知った事。「わいふ」を通して「P研」を知った事、それによりそれまで抱いていたPTAへの疑問が私の無知・世間知らず、常識からのみ来ているでもなさそうだと思えた事。「変ってほる」と言われても、他にも「変ってほる」らしい人々の多いらしい存在に心強くなったこと。

②入会させて戴いて二、三カ月、まだよく判らぬまま感謝？(拙文をボツなく載せて下さる御苦労に対し)と、恥しきで一杯ですので。そして厚釜しく多く投稿した事に申訳なく存じていますので。

③①とほとんど重複すると思うのですが、書く事の難しさ、自分の表現力の無さを改めて発見。主婦の中の多くの才女の頼もしさを感じると共に、自分自身学ばねばならないという刺戟を強く受けた事。

④別にございません。寂しくなる事は判然と予測出来ません。入会して間もないだけに、余計寂しくなるでしょう。⑤意志はあります。然し条件に限度があるのも事実です。でも余程でない限り参加させて戴き度いと思っております。

★

- ①39才
- ②娘を3人持ちました。

③主婦業のみ
④東京から転勤で大阪へ
⑤視力は衰えました。体力の衰えを感じます。

⑥フィクションからノンフィクションへ
⑦私的には子供会、PTAの役をした事。社会的には日本中の汚染
⑧変った面||人間として居直りの自信が持てた事。
変ってない面||自信をすぐ失いそうになる面。

⑨私なりに結婚生活の理想を持っていた事、それが自己中心であった事に気がついた。
今望んでいる事||地球上の人間とまで行かない、せめて日本中の人間の安全なくらし→ムツカシイネ
⑩暮しの手帖で松田道雄の随筆にチラリとつたが、レンラクの方法知らず、二年程前朝日新聞紙上で知り、レンラクした。

⑪実に見事な能力を持った方とふれ合えた。私も投稿したい／＼と思つて来た。(今、下準備中)
⑫そんな批評したくなる程長いつき合いはしていません。

⑬同年令ぐらいの主婦の子育てをしながら真剣に考えている存在を知って心強い。
⑭○神戸の市民同友会に入会しています。(小説コース)
○趣味を続けます。
⑮大いにあります。

★

- ①39才
- ②娘を3人持ちました。

【回答6】

(初めで終りの原稿です。ワイフは読むのも0。亭主だけが読者で投稿初めて)
①42才
②「母と私」から「母と私とワイフと長女と長男」
③なし
④なし。(変わりたかつたけど能力を超えた)

⑤58kg→74kg(±1kgサバよみ)老眼鏡
週5回↓週1回(0・5回)
⑥文学もNO、新聞やつと。
⑦○結婚と子供ができて、物の見方が大きく変わったこと(夢想↓現実へ)
○共産党を初めとする革新陣営の躍進
⑧禁煙できたこと。
酒をのみつづけていることと「わいふ」を読みつづけるだけでワイフにもすすめず。

⑨○革命。結果——挫折として割切るのではなく、過程として今も希望としてはある。
○ほんの小さな、ささやかなマイホーム(時折の夫婦ケンカと多少の問題児のいる)——少しずつ開けつつあり。
⑩S39・8 結婚後数ヵ月後。
創刊当時から知っていた。(御主人——高木先生との関係で)

⑪○時々タメになる記事に接しられたこと。
○ナマの人間らしい空気に接しられたこと。
⑫タメになっても「力」にならなかったこと。(特に働いている主婦にとって)

⑬「ほんとに大変な努力をされているな」と、「うらやましいな、私にも文学的才能、いや気軽に筆をとる習性と、ヒマのある身分になってみたいなー」と、自分を客観視できるゆとりを与えてくれたこと。

⑭ずっと以前から共産党機関紙「赤旗」本紙の婦人欄(生活らん)同「日曜版」を読んでいます。こちらはTYPIICAL A.Lすぎますが、ガマンします。

【回答7】

①36才
②新婚半年目でした。現在子供3人(小5・幼・3才)
③教員をして共稼ぎをして頑張っていた。5年間子供を保育所に預けながら勤め、退職して7年、その間ささやかな学習塾をしています。

④38年 豊中市市町
⑤40年 豊中市熊野町 保育所に近い
⑥43年 奈良県 退職し家を新築した
⑦⑤体重は結婚前より変化なし(42→43kg)それでも体形はおしりが大きく、胸は

⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮

★

①39才
②娘を3人持ちました。

べちゃんこになったそうです。(主人 弁)

⑥文学書……ジイド、トルストイなどから、野坂など新しく軽いものになり、殆ど読まなくなる。

雑誌・週刊誌が多いようです。

⑦私的な出来事……長男が2才、妊娠し保育所通いで、胞状奇胎になり、全身すい弱で命びろいをしたこと。

社会的な出来事……特に浮んでこないのは、家庭にすっ込んでしまったせいでしょうか。東京オリンピック

⑧変わったこと……強くなった。他人の事は気にならず、マイペースで歩める。変わらないこと……相変わらず、消極的で人とのつき合いは下手。子供っぽく、すぐ興奮したり、悲しんだりする。

⑨12年前：社会に出て男と同等に働き、自分を思いきり出してみたい。現在：主人、子供のため家庭にいて、たずなをうまくさばき、自分を見失わず、自分を出してみたい。矢張り家庭を守りながら、自分を試したい。

⑩S48年朝日新聞「私の受けた教育」の記事で知り、入会致しました。

⑪自分の考えをまとめて書いてみる習慣ができた。書くことにより、自分を投影出来、とても良い勉強になった。他の人の原稿とても素晴らしい。「わいふ」は私に一服の清涼剤を届けてくれました。それだけに廃刊はともに残念です。

⑫書いたときの反応がもう一つ鈍い様で、物足りない、きれいな事が多いみたい、もっと自分のもっているどろどろしたものもはき出せたらと思う。例会が遠

くて出席できないことも残念でした。

⑬思っていることを一人でぶつぶつ言っているよりも、書いてみて、活字になった自分の考えを見て客観的に自分が見れる。いろいろな人の考えに接し、物事を一面からみては駄目だと思えるようになった。

⑭狭い地域内でもよいから「わいふ」の様なミニコミ誌を作っていたらと思っています。近い内、近くの「わいふ」会員に誘いをかけてみたいと思っています。

⑮あります。

★

【回答8】

①35才

②子供2人誕生

③子供の誕生後三ヶ月、わいふ会員後四カ月目に就職。

④有 一回 新築によるもの。

⑤約2〜3kg肥りました。

⑥仕事上の本、新聞を読むのが精一ぱいで余りない。

⑦○主人の市会議員選挙当選の約束事であつたソビエト行きが実現したこと。

○沖繩の祖国復帰が実現した事

⑧変わった面——もの考え方(思想的)についてとくに自分に定まったものをもっていないが、沖繩という生活環境、夫の影響が大きかった。

変つてない面——人の世話をしたり、行動面は全然かわらない。

⑨良妻賢母を望んでいたが逆となつている。ずっと働きつづけ、婦人も一個の人格として解放されるべきで「良妻

賢母」という思想こそ、婦人を拘束する思想である。ぜひ婦人解放のために、家事労働の評価、育児の社会化の日が来ると思う。

⑩後藤美和子さんが地元の新聞の読者欄を通して紹介して下さいました。今から約十年前になります。

⑪一般的な主婦の考え方等が色々読めて大変よかつた。とくに沖繩へ来て当初は、(結婚後すぐ)主婦とのつき合ひもなく、紙面を通じてのオシヤベリができたこと。

⑫別がない。

⑬教育問題とか、とくにPTA活動のぬかみそ教室は大変感心をもち、子供の入学と同時にPTA活動へ私なりの考え方が生かされた。

⑭色々他に仕事もあり、少々淋しくなるけれども、読者一本の私としては仕方がないようです。

⑮将来はいいと思いますが、しばらくは子供も小さいし、まだ仕事がありすぎるので検討させて下さい。



【回答9】

①40才

②三人家族(主人 子供一人)

③なし

④住所転居一回 新築のため

⑤別に変化なし

⑥乱読

⑦一番印象に残ったことは、私的なこと、社会的なこと、いくら考えてもわからない。日々のできごとがすべて印象に残ることがらばかり。一番といえるものなし。

⑧一番変わったこと——40台になったとたん、40台ということをしごく意識し、読書をはじめたとたんいねむりがでる。「あ、年(とし)だな」とつまらない意識をしってしまうこと。

全く変つていない——もっと成長したいとおもいながらちつとも成長しない、むしろぐちつぽくなって後退した自分をみいだす。

⑨やはり日々進歩したいとおもうこと。一日一日をせい一ぱいに美しく生きたい。私の言う美しいということは、①

せい一ぱい ②日々を燃焼させる ③身辺も清潔に という意味。

⑩創刊当時、森かなえ様に紹介されて

⑪「書く」よろこび。

自分の書いたものすべてが「ぼつ」にならないで「わいふ」にのせてもらえること。

⑫「わいふ」が活字印刷になってしまったこと。会員がふえすぎたこと。だんだん会員のわりに投稿がへつてき

たこと。

⑬いろいろな会員の方の投稿からそれぞれに。

ありすぎて具体的に書けない。一人一人それぞれからすべて影響を受けました。

⑭職場のサークルで学習したい。学習内容は、子どもにすぐれた文学作品を教材として与え、文学を通して学級経営をしたり子どもを変革することをめざしている。今そのサークルに熱を入れていきます。

⑮意志なし

★

【回答10】

①満40才

②なし。家族3人(夫・妻・長男)

③S38年〜40年 市場調査アルバイト

④S47年〜現在 広告代理店パート

④同じ団地内で1DKより2DKに移転しただけです。

⑤スタミナをつけるために太りたいと思いつつ、細かい活字が苦手となりました。い続けの10年です。眼精疲労いぢるしく、細かい活字が苦手となりました。

⑥行きあたりばつり乱読はなおりません。ただ年々読書量はふえています。図書館を利用するようになったせいです。

⑦私的なこと―再度の入院をとまなう年単位の闘病生活です。

社会的なこと―食品公害・交通公害、安心して暮らせなくなったこと。ニュースとしてはケネディ大統領の暗殺

⑧変わった面―病気を通して「何とかなるさ」の度胸がついて、あんまり神経質

でなくなりました。地域活動を通して、組織の欠点や限界を見、知ったような気になり情熱がもやせなくなりました。アルバイトを通じて、夫にえらそうな態度をとるようになりました。

変らない面―いろんな事にいつも中途半端でいつも不満そうにしていること。

⑨12年前、子ども4才、あれこれアルバイトに手をだしながら、これもあれこれ資格をとり、学令期に達したらちやんとした仕事をもとうと待機していましたが。就職のきまつた翌月に病気で倒れ挫折しました。

現在自分が40才、やっぱりちゃんとした仕事をしたのですが、あれこれ欲ばりな注文と年令・能力が合わず、展望は絶望です。しがないパートの身で終ることでしょう。

⑩S39年の春、団地が同じだった十日市睦子さんが、団地むけ新聞に投書した私の拙文をみて一面識もないのに「わいふ」を持ってたずねて下さいました。

「わいふ」4号から仲間に入れてもらいました。

⑪「わいふ」誌そのものよりも、例えなど個性の強い人達と知りあいになれて自分にない面を学べたことです。各人が一匹主婦めいた魅力にあふれていました。

⑫思いつき投稿の集まりでなく、一つのテーマを腰をすえて追いかけていったら、もつと良かったのと思えます。その意味で2回だった「私のうけた教育」と「母親が外で働くことについて」の特集には満足しています。

⑬〇「母親が外で働くことについて」の特集を持ちたり、「女の自立」「自立」と例会のたびにしゃべり合っている内に、気がついていたら、隔日のパートにでて忙しがっていたことです。

〇読書の中が広がりました。こんなのクライドと思っていたのにすすめられてよむと、案外面白かったりしました。

⑭具体的には計画していません。投稿原稿のできる「わいふ」と少し色合いの違う小冊子(例えば一つのテーマについて調べたり、記録したことの結果報告といった風のもの)が、年に一回でもだせたらと空想はしています。

⑮参加します。

【回答11】

①26才

②両親―夫(結婚による)

③学生→Y M C A職員→無職→講師→英語教室

④京都市→長岡京市

⑤特にナシ

⑥何でも乱読→プラス女性問題・日本語と英語の比較など言語関係

⑦あたり前と考えていた職業を思いがけず挫折しなければならなかったこと。

⑧無知純情から、したたかな女へ。



情緒不安定・情熱家から安定・冷静・エネルギー欠乏へ。

⑨自分の能力を生かせる職業につくこと。公立高校教員は挫折、今はプライベート教師。

日本語の様々な特徴、特に敬語システム(男性語・女性語の相違も含む)がどのように日本人の民族性とかかわりをもっているか、決定しているか考えていきたい。

⑩2年前、朝日新聞で紹介された時、新居に入って私の両親から独立し、それがどういうわけか主婦業を強制されることとなり、どうもふにおちないことが多く、「わいふ」でそれが納得できるかと期待して。

⑪愚かにも学生時代軽蔑していた(保守的・天動説)自分を中心に地球は回るの(無名の主婦達の少なくともある部分は、男達によって作られている「中立」あるいは「進歩的」新聞よりもはるかに進歩的・論理的であること、同時にそういうすばらしい人材が「無名の主婦達」という大集団の中にうもれていることを知ったこと。

⑫約一時間半かけて例会に出席しようと高木さん宅前までちょっと遅れて行っただけれど、出席者が少ないとかで中止になってしまったこと。私も遅れたのは悪かったけれど、やっぱりがっかりした。

⑬社会の壁は厚いけれど、自分で積極的に行動しなければだめだということ。人間が多すぎて、又まわりにはかえって意見のあわない人が多すぎるような気がして、交際を求めるのにおっくう

になりがちだけど、自分のからにとじこもってほだめだということ。

⑭⑨で書きましたが、できれば世界中の言語の中で日本語に近いグループ(敬語・名詞の性・数・格・文の構造などの点で)と遠いグループとで、どのよう
に民族性が違うのか調べたい、勉強したい。

「自分達の話す言葉が思考・感情・行動を決定する」という仮説を実証したい。

⑮ある程度の協力なら惜しまないつもり。

【回答12】

①44才

②夫と別居

③S49・11再就職(有資格の前職と同じ職業にしている)

④変化なし

⑤昨年11月就職するようになって、3kgばかりやせた。老眼になりつつある。

⑥児童美術に関するものが増したが、大した変化なし。

⑦〇夫の家出(女性をつくり出で行く)

〇学生運動(大学改革の風)

⑧〇男性親及び女性親

少くとも男性一般について、女性よりはマシな存在であると認識していたのが、全くあやまりであったということ
が、はっきりとした。価値あるところも、ないところも全く同じである。

⑨〇第二子の誕生によって離職して、よき家庭人となろうと思ったが、甘い考
えであった。

〇自分の手で二人の娘をよき社会人と

して育てること。

⑩朝日新聞紙上に「私の受けた教育」が掲載されたのをみて(1972・6)入会したのがきっかけ。

⑪不満などにもありません。よくやって居られたと思う。

⑫特になし

⑬「わいふ」失格者は退会します。

【回答13】

①37才

②40年・42年と二人の子供が増えました。4人家族です。

③ありません。(結婚後お勤めはしていません)

④6回(主人転勤4回 大阪と四日市で各々家購入のため2回)

⑤体重15kg増加、歯ガタガタ、ふえたシワ、写真を見ると、12年前とはかなり異ります。37kgのガリン坊が今では52kgの中年ですもの……唯ありがたいことにとでも健康でこの十年間に病院の戸口を入ったのは、お産の時だけ、風邪らしい風邪もひきません。

⑥特別な様ですが、四日市に来てから本格的に始めた書道で、この頃、漢詩を読むことが増えた位でしょうか。

⑦私的「色々」の事がありすぎ、何を想い出の糸から手繰り出そうか、随分迷いました。41年・47年と各々建売とはいえ、大阪と四日市で、土地・家屋を二軒我物として持っているでしょうか。その後遺症が今も持続しているからかも
しれません。

社会的「移り変りの激しい世をその都

度驚いたり感動したり歎いたりした事は、本当に多く、何を一つだけ取り出したらいいの全く迷います。身近なところで万博の最高の人出の日、母と小さい子二人を連れて、あの暑さと人・人の中を歩いた事でしょうか。(あれから人ごみの中が嫌いになりました)

⑧変ったこと「物事あるいは人間に對しての好き嫌いが一層はつきりしてきた事でしょうか。

⑨このアンケートを書いていて、丁度私の結婚生活をふりかえっている様です。私は38年4月に結婚して居りますので、その当時の自分達が、あるいは自分がどうであったかを想い出すととてもいい折です。一人のサラリーマン、それもいたって真面目人間、会社も世にいう一応一流企業、何を望むといっても、生活という現実の内での望みは、自ずからしれます。誰でもが願う、病氣・怪我のなきように、そして二人位の子供(できれば男女各一人ずつ)を……と、その頃の私はそれ程にしか考え及ばなかったように記憶しています。その結果、幸いにその通りに今日に至っております。

⑩望むことも同じ、健康に……無事に……と、少し私事での望みなれば、子供にいい作品を残しておきたいという事でしょうか……

⑪百号記念の記事を、朝日新聞で拝見してからです。

⑫子供が全く赤ちゃんの頃は、外に目を

向けるゆとりがありませんが、一人は幼稚園、もう一人は入園少し前、そうした子供を持つ母親は何となくいらつく時のようです。私も丁度そうした頃に「わいふ」を知り入会させて頂いたのですが、新しい驚きを覚え、現状にすぐ満足してしまう私のものぐさ精神を恥入りました。率直にいつてよかったです。

⑬不満足だった点「専門的かどうか」といった事は私には分りませんが、私も含む多くの会員がただ読み手にのみまわっているため、片寄りがちだったことでしょうか。(おこがましいかぎりでも本
当に申し訳ありません)強い言葉はその点でしょうか。(済みません)

⑭「わいふ」そのものの内容より、まず主婦・親・有職、そうしたいいくつもの任の上に編輯と、ものぐさな私にはとても考えられない頑張り屋さんに、ただ「何かを学ぶ私です」

⑮参加する意志あります。よろしくお願ひ致します。

【回答14】

①34才

②S41年結婚、現在子供3人と夫婦

③36年〜39年 中学教師

④39年〜41年 会社員

⑤41年 結婚のため主婦業に専念

⑥41年 結婚のため主婦業に専念

⑦41年 結婚のため主婦業に専念

⑧41年 結婚のため主婦業に専念

⑨41年 結婚のため主婦業に専念

⑩41年 結婚のため主婦業に専念

⑪41年 結婚のため主婦業に専念

⑫41年 結婚のため主婦業に専念

⑬41年 結婚のため主婦業に専念

⑭41年 結婚のため主婦業に専念

慢性的な腰痛で困っています。

⑥ 独身時代、新婚時代は何でも読みあさっていたのですが、子供が出来てからは、子供のしつけ方とか娯楽小説、現在はまだまったものを読んでません。(婦人公論とか月刊小説みたいなもの)

⑦ 各一つとなるとむずかしいですね。

○ 教職をやめて上京する決心をする時と東京での2年間の生活(青春時代)

○ 昨年12月に広い庭と小さい家を持てた事。

社会的な出来事(うーんと考えているところ)

○ 赤軍派の女性活動家の事件

⑧ 12年間のうち前3年が独身時代ですが、独身時代はよく働き、よく遊び、まわりの人々に結婚は似合わないといわれ、自分でも結婚はしても、仕事を待つ女としてバリ／＼と思っていたのですが、結婚は私を変えたのか、これが本来の自分なのか、とにかく主婦業べったり。育児と家事に追いまくられ外に目がむけられません。

(変ってないという所は、お金の使い方が下手という事)

⑨ 少々不真面目な生活をして、お金持になって派手な生活をしてみたい、腕に技術をもって独立したいと思っていました。しかし教職の道は厳しく(真面目すぎて)、OLの道は、ただ結婚への道みただけでした。今は主人の働きで家庭を守っているだけですが、末の子が小学入学する3年後から自分の新し

い道をもつていたいと思っています。

⑩ 朝日新聞の共働き夫婦の紹介記事で、高木さんの事を知り、わいふ発行の事も知り、手紙を差し上げ入会しました。

⑪ わいふ投稿者の生活意欲、考え方、上手な文章に接して、すばらしい人達が多いなと感嘆ばかりしています。刺激になってます。自分の未熟さ、生活態度を改めたいと思っていますが、気持ばかりで、実行がともないませんでした。

⑫ 感嘆ばかりさせられた事。

⑬ ○ 身近なもの、生活記録を書いてみたいという意欲がおこりました。

○ 私と同じような環境にいる主婦が、私と違っていろんな分野に視野を広げて活動しているという事を知って、私も何かやりたい、負けないように人生を進みたいと励まされておりました。

⑭ 目下のところ別にあります。しばらくは、ぼんやりしていることでしょう。

⑮ 熊本近郊で「わいふ」のような雑誌があれば参加したいと思えます。

又、私の場合、あと一年は育児に手がとられて何も出来ませんが、末っ子が小学生にでもなれば、かり版ずりからの、主婦が主体となるような、小さい集いの誌を作ってみたい気がしています。

★

【回答15】

① 30才

② 夫、私、娘(三才)

③ 変化なし(中学校教員)

④ 今年三月末、教員人事異動により転居

しました。

転居先(〒690松江市内中原町15)

⑤ 特になし

⑥ 特になし。大体に本の虫で雑な読み方をしていますが、特に文学関係の本に興味があり、よく読みます。(現在、短歌雑誌、同人誌に参加し、できれば本を出版したいのが夢であり、また努力しつつあるところです)

⑦ 私的な面18才、大学入学と同時に恋をした現在の夫と様々な曲折を経て結婚できたこと。

社会的な面11様々な異常な事件が続出すること(犯罪が段々冷酷で無感動なものになってきていること)

⑧ 変わった点1許容的になった。

⑨ 望んでいたこと11本を読みたかった。

⑩ 望んでいること11本を書くこと。

⑪ 日付は忘れましたが、朝日新聞で「わいふ」の存在を知ってから……

⑫ 申し訳ありませんが、内容があまりにも日常的と言いか、あたらずさわらずのぬるま湯的印象でしたので、ただ読み流すだけでした。

⑬ 「わいふ」とは同人誌のようなものかと思つて入会してみましたが、本当に主婦の日常の変わりばえのない愚痴のはけ口のような存在とわかり、少々拍子抜けしたところです。毎号くマナーで変わりばえのしないメンバーが勝手気ままに書いてる感じ。もう少し新鮮味があれば……あるいは単なるあいさつ状を載せるだけでは(私もそのうちの一人)何の意味があるのや

ら……もつときびしい前進の姿勢とハグレ良さがあれば……要するに毎号あまりマナーだったことが不満(特集を毎号組めたら……)

⑬ 特になし。

⑭ 文学に向かつてひたすら前進。将来大学の研究室かどこかに入りたいと思っています。

⑮ 今のまま、同じような形式で漫然と「わいふ」が生きていくのなら参加する意志はなし。

★

【お便り】

松山市 野波 志都子

わいふありがとうございました。会費の事が気になって、その内かためて送ります。

さて、亀山利子さんの御意見、わいふ最後の10カ月テーマ原稿のひとつに「天皇制の問題」をとり上げてほしい、という事ですが、私も是非おねがいします。

私もささやかながら参加させて戴きたいと思えます。天皇制についての勉強は全くしていませんが、少ししたいと思いますの、そして、私なりの、意見を小文にまとめたいと思つていますので……。

よろしくおねがいします。今月の「わいふ」とても重みを感じて拝読しました。

【回答16】

① 24才

② 姉が嫁ぎました。

③学生→S49専攻科へ行く。週4時間定
時制高校の非常勤講師→S50中学校週
12時間非常勤講師

④学生時代下宿→S50家へもどる。

⑤あまりない。

⑥小説→大学3、4年の頃は女性の「自
立」に関するようなもの、子どもに関
するもの(母と子)→専攻科、現在、あ
まり読まなくなった。読んでも小説。

⑦私的な出来事→失恋。人の心は移り変
るということを実感した。

⑧変った面→大学2年頃まで「絶対主義
者」「理想主義者」と言われていたが、
今では「流すこと」を覚えた。

⑨望んでいない面→自分の事をプラスに
でもなく、マイナスにでもなく「その
もの」として人にみてほしいと願う心
こと。その結果→私の育った環境(家
庭・社会)ではムリだった。また、自
分で自分を甘やかしてしまった。

⑩望んでいること→婚約者が東京にい
るので、東京都の教員採用試験を今年
受けるが、それに受かること。

展望→自分の努力次第だと思っ
た。

⑪昭和48年12月19日の朝日新聞の紙上で
地道に活動している多くの女性の存在
を知った。特に、高木さんの生き方に
は感心させられ、勇気づけられる。

⑫満足というものは、自分が積極的にと
りこんでいった時にはじめて得られる
ものである。「わいふ」に対する自分の
かわりあい方をふり返った時、私の
場合いつも受身であった。だから、人

の書いた文を読んで感動する事はあつ
ても、満足するはずはない。また、不
満足と言えるだけの真剣なかかわり合
いをしていなかったと思うのです。

⑬まだまだ「これから」の私にとって、
先輩の生き方は参考になった。

⑭「わいふ」の創刊当時のような、女性
として、妻として、職業人として、ど
のように生きていくか、迷い／＼して
いるようなメンバーが集まれば、「グ
チをこぼして考えよう会」なんてもん
を発足させてみたいと思う。

⑮ない。名前だけの会員、受身の会員か
らは脱却したいと思っている。

★

【回答17】

①26才

②子供の立場から親の立場に。夫と子供
1人の3人家族。

③学生→OL→主婦

④夫の転勤で住所変更1回

⑤年々やせる。

⑥外国文学(小説)や紀行文の類→社
会科学、思想、哲学の類→日本の古
典とそれについての文献、「公害」の
類。

⑦私的なもの→結婚

社会的なもの→ケネディ大統領暗殺事
件

⑧変ったところ→ロマンチストで理想主
義的であったのに、しだいに現実的で
行動力が欠けてきた。

変らないところ→何事にも慎重だけれ
ど間がぬけていて、ものおじしい割
に行動する時は、自分で十分納得しな

いと出来ない少々頭でかちのところ。
⑨高校生のころは南米へいって、日本語
を教えたかと思っていた。

今考えてみればささいなことでもつまづ
き夢破れました。

今の望み→職業をもって働きたいこと。

⑩一昨年冬、朝日新聞紙上での紹介記事
に接して。

⑪実に生き／＼とした人間模様を知るこ
とが出来た点、とてもすばらしかった
し、何も出来ないでいる私には刺激と
なって蓄積されたようだ。

⑫平凡な主婦である私には、子供と家庭
を自分自身からどう切り離していくか
ということが一番関心があったのだけ
れど、一人の女性として社会で自分の
位置を占めた人達の話が出るたびに、
うらやましさと同時に、私とのギャツ
プを感じさせ、また身近なことを書い
た記事を読むと、当りさわりのないこ
とをきれいに書いてあり、私は普通の
関わりを感じる事が出来ず、言いた
い、書きたいことがあるのに、本当に
書いてもいいのかしらという気になっ
てしまった。又書いても記事になるだ
けで、「終った」ことになるような反
応のない一方通行的な感じもした。

(投稿もしないで勝手なこと言っ
てごめんさい)

⑬現在、近所の人達と公害食品と人間の
生き方などについて講師を招いてグル
ープをつくっているの、自分ものを
書くペンはおいておいて、もっぱら口
と行動で現在をみつめていくつもり。
それに伴って、数人で共同保育なども

考えてみるつもり。
⑮ない。

★

【回答18】

①45才

②なし

③昭和45年3月退職

④あり 3回 夫の転勤で2回。マンシ
ョン購入で1回。

⑤体重3kg増

⑥視力かわらず、1.2

⑦職業上必要としたものから、主婦業に
必要な実用書になる。

⑧夫の転勤

⑨物価の高騰

⑩「こうあるべき」という理想像のフイ
ルターを通して人間をみてきたが、専
業の主婦となつてからは「あるがまま
の姿」を先入観なく心に投影させるこ
とが出来るようになった。

男の社会にいた時の主婦像とは全く違
つた主婦像を自分の目で見る事が出
来た今、素晴らしい主婦に対して羨望感
が湧く。そうなりたいと思う一方、家
事よりも職業を持つための勉強をした
いと思ってしまう。

⑪父は映像文化のプロデューサー。その
補佐役から脱皮して、女の側からとら
えた女の役に立つ映像作品をプロデュ
ースしたいと望んでいた。製作、演出、
撮影の部門で、それぞれが担当して、
がんの子防映画を作った時、NHKテ
レビに招かれ、その抱負を語ったこと
がある。しかし、夫の転勤、私の退職
によって、その希望を進展させること

が出来なくなつた。スタッフは、それぞれ素晴らしい作家として映像作品を生みだしていることを喜んでゐる。

今は主婦業の修業が第一。女がその個性を束縛されることなく發揮出来る社会の実現を夢みながら、家事の効果的省力法を研究しようと日常の生活をみつめてゐる。

⑩昭和46年、朝日新聞に記載された「私の受けた教育」の申込み。

⑪はじめてPTAの委員になつた時で、非常に参考になつた。

⑫集會が日曜であつたことが残念。

⑬ほんものの「わいふ」に接する思いがさせられた。

⑭男の興味とか着眼点から外されている「主婦の雑学」といったようなものを発見してゆきたい。

⑮いろいろな主張や立場を認めあえる広場であるなら會員になりたい。家事好きな人の知恵と技術を、その人一人だけのもの、或いはその御家族のためのものにしてないで公表して戴きたいと思う。

★

【回答19】

①34才

②1人↓2人(結婚)↓出産(長女40年長男43年)現在4人

③国家公務員(文部事務官)を、長男誕生後退職。以後ずっと主婦専業。

④結婚して住んだ家が狭くなり、又、夫の転勤で少し遠くなつたため転居(借家)1回

⑤出産後ふとりぎみのまま、ここ四、五

年何の変化もなし。貧血症は持病らしい。

⑥大いに変化した。一番悩んでいる点。以前は一日に2冊の本を持ち歩いて、どこでも読めた。現在は時間がありそうなのに、一週間に一冊読めないこともある。根氣と意欲の減退か。

⑦結婚生活と「わいふ」の歴史とほぼ一致している。

⑧結婚生活と「わいふ」の歴史とほぼ一致している。

○出産(それに伴う苦労)

○日中国交正常化(中国は非常に興味のある国なので)

⑧常に前向きに生きようとしていた、そのために意欲的だった。現在は出来ることだけをやってすましてしまふ。結局ナメケモノになつてしまつた。

⑨「人間、心(ハート)が大切」と思う氣持は變つていない。

⑩どんな境遇にあつても、明るくのびのびした子供を育てたいと思つていた。

⑪親としての自覚が足りないため、少しおとなしい子になりすぎたようだ。(人に迷惑をかけないようにと、おさえずきた。)

⑫今は、皆が健康で自分の望む通りにやればそれでいい。私は自分の思い通り生きているつもり。(家は持ちたい)

⑬6年程前、朝日新聞家庭欄で紹介されたのをみて、「私の受けた教育」シリーズの時、以前からそれとなく考えていたものと一致したこと、育児からの疲れをいやすため入会。

⑭顔も知らない方々が、とても親しく感じられ、仲間意識がもてるようになった。意見の合う方、違ふ方、それぞれ

の立場が理解できるようになつた。何を書いても、のせていただけるとは、自分への試練でもあつた。

⑮一時期、内容に社会批判らしいものが偏りすぎ、他の原稿が少なくなつた。不満足というのではないが、あらゆる世代と思想のあることを考慮して、かた苦しきない方が長続きすると思つた。その時々の編集方法によると思ふから、原稿を書かない者が悪いということになるが――。

⑯「わいふ」をここまで続けてこられたことに対して、敬意を表します。具体的を書いてはきりがありません。皆様がどれほど人生を積極的に生きようとしておられるかが、あらゆる面から感じとられ、いつも頭が下る思いでした。考えることは私にもできますが、実行することの困難さを種々の方が教えて下さいました。いつも一冊読む毎に反省ばかりさせられております。

⑰特になし。現在やりかけたものを継続していく予定。

⑱大いにあります。私には力がなくできませんので、どなたか、何らかの形でやって下さるのを待つのみです。

⑲協力しあえる人が近在にある場合、可能と思ひます。貴重な存在だつたことは、皆さんがよく知つておられることですし、完全に消えてしまふとは思いません。距離と時間がうまくいけば、私もお手伝いさせていただきたいものです。

★

【回答20】

①39才

②昭和50年6月現在

夫45才、長男15才(高1) 次男8才(小三)

夫婦の老化、長男の成長、次男が増したのみで核家族は12年前と同じ。

④神戸→広島へ 夫の転勤の爲

⑤体重は増加の一途、スタイルはみるかげなし。

⑥視力は弱る一方、但しまだ近視で老眼ではありません。

⑦翻訳物から日本文学へ、青春物から女の生き方的な物へ。論理的なものから感性的なものへ。

⑧書いてみると、年と共に視野が狭く、自分中心の物事にしか興味が無くなつたのではないかと不安です。

⑨義妹(弟の嫁)の死

⑩アジアの餓死者の群

⑪變つたこと―學歷に対する考え方(人間の価値感)。字を書かなくなつたこと。

⑫変らぬこと―優柔不断なこと(意志の弱いこと)

⑬12年前―新しく出来た団地の自治會作りに走り廻つていたように記憶します。が現在ではモデル地区の名を貰つて静かな住宅地になつてゐる様に聞いています。(伊丹市)

⑭現在、巨視的には、餓える人のない世界を希望します。自分が産んでしまつてからで申し訳ありませんが、地球上に、人間が多すぎる。このままでは見通しは暗いと展望はなし。

私的には、そろそろ永住の地を定めて、ネクラ作りにとりかかりたいが、先立つものの工面に当分頭が痛いでしょう。

⑩昭和40年夏、友人宅で「わいふ」をみて。

⑪真剣に考え、悩み、行動する多くの主婦を肌で感ずることが出来、単なる小説や雑誌と異なる読みものを、毎月目にする度に自分を省みる材料に出来たこと。

⑬具体的に書くことは出来ませんが、何かをする時、不安がある時、書いて投稿するところ迄はいかなくても、「わいふ」の人達ならどうするだろうかと考える目安になり、ワンクッションおく時の自分の行動や判断の良心的な支えになって来たと思います。日々そうして暮すことは私の生活に大きな影響をもったと思うのですが。

⑭考慮中です。いつも他人様のお膳立てに乗っかっていくだけで本当にいいのでしょうか。

★

【回答21】
①50才
②家族6名、水入らずの最高の時ですが、上の娘2人が大学入学以後東京在住で、満足は欠いております。

⑤視力、早くから(小学生)の近視でしたが、今、写真を見たり、つづりもの、ミシンの時ははずします。
少し時間が取れたら縫物をうんとしようと思っていましたのにひにくな事です。

⑦素晴らしい人間の愛を知り得た事。

生涯に二度とない、エリザベス女王をお迎えし、直接お目にかかる機会が、昭和50年の日本中快晴に恵まれた美しい季節に実現した事。巷の流行が如何にもお粗末。かざり気のない自然な御様子ながら、本当に「美しい人」であって、老若男女を問わず見とれていた様でした。

⑨子育ての責任を果せたら：果せたら：と日々念願し、一步／＼前向には歩んで来ましたが。然しこれを果せば、何をしようと思ってもいなかった様です。世界各国が良識をえて、適当な地を求めて進出する事がもっと容易であってほしい。地球上行き度い国へ行って生活する事が可能であってほしい。自分の生涯に於ては思う通りにはなりそうではないでしょうが、私の二世や三世がそうであってほしい。

⑩朝日新聞紙上に見出しました。
⑪毎月小冊子が折目正しく届けられて来るといふ事が大変貴重な事。手にした時、こういった事が感じられた事の有難さでした。

⑬昭和50年、この年代と私の満年齢は同一です。40の手習とも50の手習とも申されていますが、私は両この50年を期して2つの手習を本当に実行する事にしました。一つは四月から始めました乗馬。その二は6月の誕生日から必ずたずさわる事としたピアノですが、新年を契機に一人旅も実行し出しました。実に質実なもので、決してブルジョアぶった事を御披露したのではございません。これらにも増して人と話す事、

語り合う事が好きで「わいふ」で皆様との闊達なお話は何えな事はない事、これからこそ何とか立派に綴られる方々と苦楽を体験する事の出来る、素晴らしい人間達の世に感興を深めたいと思います。

⑮継続の為の参加に応じさせて頂き度く存じます。

【回答22】
①36才
②長男出生し、5人家族となる。
③なし
④なし
⑤遠視であることがわかり、S49年に眼鏡をかける。
⑥新聞、週刊誌→S49年から心理学の勉強をはじめた。

⑦子供の誕生
月着陸
⑧今も昔も子供を相手にして話すことが好きなので、子供のことももっと知りたいと思っている。

⑨結婚して新家庭を築くこと(結果→子供も素直に成長しつつあり、家族それぞれが自己を伸している)
このまま統いてほしい。

⑩新聞の婦人欄 S39年頃。
⑪姫路市のはずれにいて、交通の便が悪いせいもあって、子供相手の生活だから、社会の息吹きを与えてくれた。

⑫会員の方々と直接お目にかかれる機会がもてないこと。
⑬家庭にだけ安住せず、自分の可能性を発揮しようとする意欲に刺激された。

⑭心理学の勉強を続ける。
⑮YES



★
【回答23】
①38才
②夫39才 妻38才 長男9才
③なし(公務員)
④有(2回)分譲住宅購入、その後学校関係のため。
⑤体重は益々ふえる一方、視力は下る。
⑥育児書→教育関係月刊雑誌、趣味の本(人形製作)

⑦仕事と育児に明け暮れ、時間に追われ続け、子供が小学校へ入学当時からやると気持ちの上で余裕が始めた。
⑧変化した方面→社会情勢に目が向かう様になった事、それと同時に、いろいろな機会に講演会に出席するようになった事、料理嫌いは以前と全く同じだ。

⑨とにかく一日でも早く退職したい事。その結果は残念ながら今だに仕事から離れられない。自分の時間が充分ほしい。
⑩42年の4月頃

「わいふ」の会員が友人であるため、その人からすすめられた。
⑪婦人雑誌に見られるような、表面的なものではなく、主婦としての、物の見方

がきめ細かく綴られており、同意を得たように思う事もあった。

⑫42年から四、五年の間は、女学生の郷愁のような読物が多く、馬鹿らしくて読まないのが多くあった。読んだのは主婦としての家庭での工夫とか「千エ位のものだったように思う。」

⑬仁川保育所作りの地道な運動の仕方が読物の中で興味があり、次回が、待ち遠しかった。それと照井さんの書き物が子供を持つ私共としては非常に参考になった。唯社会に参加している(働いている)だけではだめだな、何かを残したいという気持ちにさせられた。

⑭別になし。今迄通り手当り次第に雑字をするだろう。

⑮なし。

★

【回答24】

①40才

②なし

③なし

④一回有り、家主の都合で。

⑤体重変化なし、視力1.2→0.8に

⑥文学的なものから、自然科学的なものへ傾いています。

⑦私的なこととしては沢山ありますが、たったひとこと「最後まであきらめるな」と子供に叱られたこと。

国際的にはケネディ暗殺、ベトナム戦争終結

連続爆破事件

⑧変わった面―自分を知らうと思うようになったこと、他人の苦勞が少しづつ理解出来るようになりつつあること。

変らない面は、いつでも他人に笑われてしまいうる。病気で死ぬのは絶対にいや/ということ。

⑨一番に子供が丈夫で明るく育つように願っていましたが、その通りになりました。

日本の公害(環境)をなんとか少くしたいこと。世の亭主族をまきこんで実績をあげたい。難しいがなんとか。

⑩朝日新聞の紹介でした。中学時代から童話を書きたくてたまらなかつたし、とにかく書くことがしたかつた。

⑪○どんなわいふでも似たようなことを考えるのだと知つた点。

○一見頼りなさそうなわいふ達でも、やろうとすれば、出来ることもあるんだとわかつた点。

○仲間とはいいいもんだと感じた点。

⑫誌代が安すぎる点。

○世代の異なるわいふ達の発想をもつと知りたかつた点。

⑬沢山あるようで、なんとも書きにくい。

⑭それでも書き続けます。

⑮あります。

例会御案内

7月20日(日) 午後1時より

高木宅で行います。

編集会議をかねて2カ月間つもりつもったおしゃべりをしたいと思います。多数御参加下さい。

【回答25】

①32才

②独身↓夫十子供2人の4人家族

③デザイン事務所勤務↓主婦専業

④神奈川県大和市↓神奈川県相模原市(結婚・共働き) ↓愛媛県越智郡(夫の郷里、夫転職、私育児) ↓東京都町田市(夫の転職、私復職、長男保育所)

↓愛媛県越智郡(夫転職、私二男育児) ↓愛媛県越智郡(夫転職、私二男育児)

⑤たいした変化なし

⑥見る本(デザイン書・誌・写真集など)

↓読む本(最近、本多勝一・梅原猛・丸谷才一さんのいろいろから教育関係・弁証法的唯物論入門など)

―これは夫に薦められて―

⑦私の方はありきたりですが出産、感動しました。

社会的の方はベトナム戦争の終結、勝利の子想はしていたものの、これほど劇的にかつ急激に訪れようとは思わなかつた。ベトナム民族の強い意志と団結、そして彼らを結束させた大きな力、ホー・チ・ミンに心から敬意を表します。(終結の日4月30日は、私共の結婚記念日、忘れられない日になりました。)

⑧夫の影響で「働くだけがうじやない」とさとり、ガリガリが丸みをもつてきたのはいいんですが、おしりが重くなつたというのか、勤勉でなくなりまし

た。変らないのは自主性に欠けていること、たとえば、この「わいふ」への参加のよう、できあがったものへ加わるばかりで、自から創りだすことをしない。相変わらず、お化粧、パーマツツ気、ま

くありません。

⑨12年前望んでいたことは、結婚・育児・職業を持ち続けることをすべて実行したい。結果は現在育児から手が離せず、仕事についていない。居住地を選べば可能な方法もあるが、私一人の都合でそうはいかない。今は、来年から保育所へ行ける二男と、小学校の長男に、さしざわりのない仕事を考えている。僻地での私の昔の仕事が続けることはむずかしく、現在通信教育で簿記など勉強中、これからの仕事に役立てばと思つている。

⑩昭和48年12月、朝日新聞の紹介記事で知り、職業をもつ母親同志の声を聞きたくて。

⑪何のお手伝いもせずに、毎月送つていただいて、会員と呼んでいただいて、私ばかり良い目を見て、編集の方々に申しわけありません。色々な職業にたずさわる方々のご意見を聞くことができ、働く母親にもさまざまなタイプがあることを知りました。母親であっても、仕事を続けることによって生活に張りを持ち、自立した人間であるべきだと改めて確信いたしました。そして子供にも自信を持つてその姿を見せたいと思います。

⑫廃刊の理由にもありましたように、子供に手のかからなくなつた方の投稿が多く、現在、子育て中の者には少々わの空、全国に散らばる会員が小さい支部でまとまる機会があつたら、生の話合いができたかもしれない。(これは編集部の方に申しあげること

私が近くの会員に呼びかければよかつたわけだ。すみません)

⑬母親が仕事を持つ時の育児についての心配がありました。多くの母親が、いろいろな工夫をして乗りこえていらつしやるのを見て、やっぱり働いてみようと思つています。身近かなPTAの集まりでは聞くことのできないPTAの姿をみせていただき、大変参考になつています。

読むこと、書くことをめんどくさがつてはいけなと反省しています。

⑭今のところありません。身近かな人達で話合ひのグループができたらしいなと望んでいます。

⑮値上げは当然でしょうが、悪条件というのがこわいですね、条件しだいで参加させていただきたい。

★

【回答26】

①70才

②五人家族より一人暮らしに。

③主婦より未亡人に。

④変化なし

⑤変化なし

⑥宗教の書に親しむようになる。

⑦病夫とも死に別れる。

⑧変わった面―不足心のぐちもなく、何事もよこせる心になる。

⑨子供達もそれぞれ結婚し、別居しているのを喜んでゐる。これからの私の生活

人とうの人生かと思つている。
⑩一号は娘由利子から頂く。すぐ入会、今日に至る。

⑪すぐ入会して原稿を書き、翌月のわいふに載せてもらつてよむたのしきは忘れられない。

⑫あまり感じない。長文がのれば、印刷した方に気の毒に思う。

⑬皆様の心境が手にとるようになるにわかり、自分も意欲が出る。

⑭子や孫達の幸せをねがう、宗教会の勉強をしたい。

⑮参加したいが、どちらでもよい。

★

【回答27】

①31才

②6人家族から結婚して2人になり、今は子供1人と計3人。

③大学卒業後通信制高校の講師を2年、そのあと公立中学校の教諭を6年近くして今は無職。

④有、3回。(1)親元から就職のため寮に住込み(2年余) (2)退職後又親元へ帰つて就職し、結婚のため1回 (3)住宅が空いたので転居。

⑤学生時代はどちらかという肉づきのいい方だったが、就職・結婚してからは少しも太らない、むしろ細いといわれる。

⑥学生時代は文学や専門書が多かつたが、就職後は教育書や雑誌の乱読、ジャーナリズムにとりあげられたものなど多様。現在は、あまり読む時間がないが、源氏物語の現代語訳をよんでいる。ほ

そほとじつくりとよむ傾向がでてきた。

⑦私的―学生時代の今までの恵まれた人々とのつき合ひでなく、就職して底辺で一生涯勉強し働いている通信制高校生との出会いと、わずか半年であるが、肢体不自由児の学校で教えた経験が私の人間変革の要因になつてゐる。社会的―たくさんあるが、一つだけといへば、ベトナム戦争

⑧変わった面―生きる自信というものがつた。(何年間か、とにかく責任ある仕事についた経験で)

全く変つていない面―自分への甘え、意志が弱いこと、生き方が生ぬるいといつた方がいいかもしれない。

⑨一番望んでいたことは、当時学生だったが卒業して社会に出てその風にあたり、自分をためしたいと思つてゐた。その結果は、やはり中途半端な甘つたれた自分をいやというほど感じてがっかり。

今一番望んでいることは、平凡ですが子供が健やかに育つてくれること、夫が元気で働いてくれること、私自身にとっては主婦業をもつとよまくなしたいこと、いずれは能力にあつた仕事を持つこと。その展望はこれから四、五年のがんばり方次第と思う。

⑩一年ほど前、朝日新聞にわいふのことが載つていてよみたいと思つたので、⑪ちょうど入会したので退職して家庭に入つた時だったので、単調な生活による刺激となつたし、又、主婦といつて

も個性をいかして前向きに生き、考え行動している人達が身近にたくさんいるといふことで、うか／＼していられないと思つた。

⑫廃刊が急にきまつたことで、私にとつてはこれからという時だつたのが残念。読み手―書き手であるというユニークな所が充分生かされてない点(私も責任を感じていますが、もつと会員一人／＼が必ず書くようにしたらよかつたのになと思つ)

⑬主婦専業―三食昼寝つきといった先入観でしぶ／＼退職してその座について私ですが、わいふの先輩主婦たちがいかに主体的に活動し、個性を生かそうとしてゐるか、「わいふ」を読んで考へ方がかわりつとあります。職業をもつていた時よりずっと自由な時間がある現在、それを生かして広くよみ、考へ、活動していけるよう、まず身近なところから主婦だからこゝろあるべきだといふ考へを否定して、主体的な生活をはじめたいと思つてゐる点。

⑭まず四、五年は、まだ育児にしばらくはありますが、それと平行して、その後の生活の準備もしておきたい。できれば、又教職に復帰したいので、勉強を続けるつもり。(例えば、通信教育で書道が続けていく計画を実行中)

⑮あります。



【回答28】

①56才

②昭和40年祖母の死、46年父の死、現在私と私の妹、私の娘と3人になりました。

③ナシ

④43年現住所に移りました。それまでの前の家が古くなったためです。

⑤体重はふえたが、視力の方は老眼がひどくなった。

⑥老いはれて来つつあるらしくて読書は目がつかれてやりきれません。だんだん読む量がへります。

⑦先ず私的なことは父の死です。社会的には十勝沖地震です。

⑧少しは変わったかも知れません。親子とすることについて、これからの親と子ほどの様な暮し方をするかと、娘が年頃な故かも知れません。しかし私は何

ことにも今までなりゆきにまかせて暮して来ました。これからも其の時に準じて考えを変えて行くと思います。

⑨娘を育てることでせい一ぱいの生活でした。何とか一人歩きの出来るようになった娘を見て、自分の役が終わったという感じ。今は望むことはとりたててありません。みんなが健康でさえ居て

くれれば何もういことなしです。

⑩ガリ版ずりの頃、たしか47号頃だったと思います。きつかけは暮しの手帖91号で松田先生の稿を読んだとき、コレ

ダと何故かすぐその気になりました。

⑪何となく自分なりに世の中を広く感じたことです。老いて来ると精神面がひ

どくなる。少しでもたいくつをなくする方法をせつせと考えているのにわいふは役立つ。私は何度でも読み返す。そして思いをめぐらす。

⑫皆さん、お行儀のいい方が多いという感じを受けました。もつとぎつぱらんに、足を投げ出すような話もあつていいと思いました。

⑬どの頁にも私と同じ考えを持った方々のたくさん居られるのにとても力強く思いました。

身内のこと、経済のこと、世のうつり変わり、それについていけるかどうか、女であるためにいつも弱い立場に立たされていた。戦中戦後ずっとまだ女の場はせまいということです。

⑭がっかりしてしまつて困つてます。一昨年より友と二人で俳句の仲間入りを

させてもらいましたので、まだ新米ホヤ／＼ですが、み／＼と勉強しようと思ひます。とてもむづかしくて、何度も失敗やら、はじをかくやらですが、

どうしたのか、やめられませんが、⑮喜んで参加させていただきたいです。

【回答29】

①40才

②夫、私、長男↓夫(41才)、私、長男(16才)長女(9才)

③変化なし(グラフィック・デザイナー)

④なし

⑤12年前ー体重63kg、身長150cm(B92・W72・H92)

14カ月前ー身長150cm、体重65kg(B92・W75・H92)

現在ー体重54kg(B89・W65・H90) まだ太い。

⑥特に何が面白くて読んだという記憶はないが、12年前にはマンガ(読書?)も結構面白く見ることが出来たが、最近ではマンガを面白いとは思えないのが不思議な変化におもえる。最近「江分利満氏の優雅な生活」はとても面白いと思つた。

⑦私的ー十年前程前から親しくしていた友人が亡くなったこと。お互いにイヤなババアになつて世にはばかるつもりでしたのに。

社会的ー特にどれを取るといふより、学生運動の起こすさまざまな出来事。それに対する考えは私にはまだまとまつておりません。

⑧変つた点ー自分が自分の責任で結婚した以上、私が生活の責任を持つと意

気込んでいましたが、男の物の考え方がどうも私と違つている様で、私は仲間同志と思つていても、あちらさまはどうも「オレの女ヤ」といったところが

見えてきて、ホレた弱味で夫の考え方に同調したふりをして、「夫に責任があるゾ」と考え方を変えたようにみせて

ます。

変らない点ー夫を見ていて男の物の考え方に少しは失望しているのに、私は相変わらず女が社会的に男と変つていて

はいけないと思ひつづけています。

⑨家事等、仕事に差しかえる様なことをしないで、もつと自分の仕事を充実させたいと思つていました。夫の仕事ももつと安定してくるものと思つてい

ました。

その結果は、家事専従の方を頼めるほどのようもなく、相変わらずどうして

両方をしなければいけないのだろうか?と思つています。夫の仕事の方も客

細な仕事で不景気の嵐はもろに吹き込み、浮き上がることがありません。でも本人は全力投球でがんばるので、私が一言もはさむよちがありません。

展望ー結局このまま続けると思ひます。大してお金がいらないわけでもありませんが、夫と私、お互いその時点で全力で生きることゝが共通の考えですから、

大きな展望など考えていません。⑩昭和48年12月の朝日新聞で知り、49年

123号より。⑪本来なら出会うことのないと思へる、

それも素晴らしい方にお会い出来たこと

とです。⑫皆様にくらべて本当にみじかい間ですので、皆様の考え方がまだわかりません。感じとしては「女」であることに

素直すぎる様で……そして育ちの良い方ばかりに感じて……「女」が「女」であることをいけないことはありません

が、私にとって物心ついた時からの「女」であることの社会においての「女」

について考えつづけているのが私の課題だったような気がするものですから。その点でも「わいふ」というタイトルにも少々ひっかかります。すみません。⑬自分の生活に新鮮な息吹きを吹き込んで下さつて感謝しております。毎日、自分の巢の中で自分の考えだけを反すうして

ることが出来、もう少し私も能動的に働きかけたと思うようになりました。でもエンジンのかかりのおそい私は、まだ何も具体的にはやっていません。まず出来ること……もつとハッキリ自分の主張をしてみることから始めます。

⑭何もありません。

⑮私にとって外部からの刺戟は「わいふ」しかありません。続ける方がありません。ぜひ参加したいと思っています。ただ筆不精な私があるのだからどうかと自問してみますが、他の方のおしかりを覚悟でどうしても参加したい……と思っています。

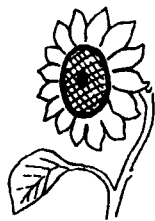
【回答30】

- ①34才
- ②独身→主人、私、子供三人
- ③保母→主婦
- ④結婚により住所変更、以後夫転勤の為五回変更。
- ⑤体重48kg→56kg 中年太りの気あり。
- ⑥特になし
- ⑦私的→結婚・出産 社会的→石油ショックによるパニック状態
- ⑧変わった面→容姿・きりぎりすが豚になった事。
- ⑨変らない面→精神年齢が二十代
- ⑩仕事の関係上→親から見放された子供等が将来幸せな生活をいとなんでくれる事。その結果は、ほとんどの子が、社会の偏見にもめげず、結婚して子供をもうけ幸福な家庭を築いている。望む事→学歴偏重の社会がなくなる事。

子供達が納得のゆくまででいいいに教わる事の出来る学校になる事。

⑩昭和47年1月、高橋紀子さんの紹介で入会しました。

⑪様々な職種の方・全国の方々の意見が聞かれた事。社会に対する不満等、私と同じ意見をお持ちの方が沢山あると知った事。何のお上手もなく、みなさん本心をさらけ出しての投稿に好感を持ちました。誰に遠慮する事もなく自由に書け、のせてもらえる喜び。



- ⑫ありません。
- ⑬独身時代色紙に水彩画を自己流で描いていましたが、出産・育児で中断、でも平田さんの表紙絵に刺激され、また始めました。出来る事なら平田さんに教わりたいと思えますが。
- 特に教師の方等家庭と職場の両立で大変ですのに投稿されたり読書をなさっている様子を拝読し、私も主婦業に甘んずる事なく、何かやらねばと思い、去年秋から、ものみの塔の聖書研究と新日本婦人の会に入会し、今、学童保育所作り運動に協力中です。
- ⑭ぜひ続けてほしいのですが、どうしてもくだめなら、友達と「わいふ」を手本に小さなものをやりたいと思います。
- ⑮大いにあります。わいふはお金には代えられない大切なものがあると思います。ぜひおねがい致します。

【回答31】

- ①48才
- ②昭和38年、夫、妻、長男(3才)長女(1才)、その後S42年次男誕生
- ③S38年 主婦専業
- ④S49年 枚方市教育委員会勤務
- ⑤なし
- ⑥育児書、家庭教育に関するものが多かったが、その後幅が広がって、現在では何でも手当り次第といったところ。
- ⑦12年間は長い様であったという間に過ぎ去った感じです。色々な事が起きた様に思えるのに、思い出そうとしてもこれと言って思い出せず、もどかしくなります。
- 社会的な事では万国博が印象に残っています。
- ⑧変わった面→12年前は、子供達が幼かったせいもあったが、視野がせまくなった身の近なことに関心を持っていた様に思える。長男入学を契機に、頭の空白を埋めるべく、どんな欲に努め、さまざまな事柄に首を突っ込んできました。そのせいか少しは人前で話せるようになった事、他人の立場が理解できる様になった事などです。
- ⑨変っていない面→いつまでたっても家事が下手な点。
- ⑩夫(税理士)と私(司法書士)で共同の事務所を持つ事を望み続けていますが現在もまだ果たせていません。今も希望を捨てず、経済も伴わね

ばなりませんので、昨年六月より勤めに出て、一歩ずつでも近づけるよう努力しています。

⑩わいふ一〇〇号記念特集号が私との出会いです。朝日新聞に右の事が紹介されていたので、送っていただき、その後入会のおすすめをいただいで入会したのです。

⑪読み手専門であっても、皆さんのお顔は知らなくても、大勢のお友達から毎号色々な話を聞かせていただいている様な誠に貴重な存在でした。廃刊が惜しまれてなりません。

⑫特になし。

⑬色々な方々のさまざまな考え方や意見を讀ませていただき、私にとっては先生の様な役割をもらった様に思えます。わいふには一度も投稿せず申しわけなかったのですが、最近PTAの広報紙に掲載される文章がやと書けるようになり、わいふからの影響の大きさに我ながら驚いている所です。

⑭今のところ、どうしてよいかわからないが現在の心境です。

⑮参加したいと思っています。

【回答32】

- ①41才
- ②ナシ、主人41才、電々公社員 長男高校2年 長女中学3年
- ③ナシ
- ④堺市から現在の枚方市へ。
- ⑤39kg 視力一・五、ヤセツポツチ、カマキリとかカモシカとよくいわれます。

⑥特になし。今は何といたっても関心のあ
る「複合汚染」を読み直しています。

⑬私はいつも振り返ってはかりいます。
地域活動(牛乳の販売)など読み、も
っと時間を大切に(上手に)使って自
分を育てなければと思います。

⑦私的―現在の家に引っ越した日の夜
社会的―浅間山荘事件

⑭ありません。
PTAに首をつっ込んでいます。

⑧私は2年間です。そんなに変ったと
は思いませんが、物事が正面ばかりで
なく斜めから眺められるようになりま
した。ちよつとしたこと、今迄だつた
ら見逃していたことに気付くようにな
りました。

⑮どんな悪条件でも続けていきたいの
です。少しでも早く皆様方に追い付け
らと思っています。

⑨わいふを通じて勉強したいです。

いつも皆様におんぶして申し訳なく
思っています。発行という義務感をお
わせている事も重ねてお詫びします。

⑩出会いは新聞です。何とか人様の物が
手がけられるようになった和裁に物た
りなさを感じていたころです。和裁を
始めた頃は、洋服の感覚で着る和服と
か、袂を入れないものとか私なりの夢
のようなものがありました。でもまず
自分が着物を着るのがいやではどうし
ようもありません。それに山と反物が
積み上げられ日を切られると新聞に目
を通すことも出来ないのです。

⑰でもやがてはお手伝い出来るようにな
りたいと思っています。

⑪自分がかかったことはございませんが、
たくさんの方(お友達)がふえたよう
で心強さを感じます。そして親近感
を覚えます。

⑱12年前育児に追われていた頃「ああ
自分の時間が欲しい」と切実に思っ
ていた。現在ある程度その自由時間もあ
るが活用はしていない。年毎に、何かし

⑫不満足なんて、何もありません。ただ
活気ある毎日のお姿、そして心にしみ
る文面に触れ、私なんかの出る幕じや
ないような気がして気後れしています。

⑲働きのながら前向きな生き方をしてい
らっしゃる方々の生活が伝わってくるよ
うな「わいふ」でした。

⑬「わいふ」を手にする度に「私も居眠
りばかりしてはいけない」とは思
うのですが、特別に影響を受けたとも
思えません。残念ながら……

⑳誠心で消極的であれながらもどかしいの
ですが、なし。

⑮あります。是非どなたかよろしくお願
い致します。

㉑ありませぬ。是非どなたかよろしくお願
い致します。

⑯「わいふ」を通じて勉強したいです。

㉒変化なし

⑰でもやがてはお手伝い出来るようにな
りたいと思っています。

㉓積極性を学んだ。

⑱12年前育児に追われていた頃「ああ
自分の時間が欲しい」と切実に思っ
ていた。現在ある程度その自由時間もあ
るが活用はしていない。年毎に、何かし

㉔特になし

⑫不満足なんて、何もありません。ただ
活気ある毎日のお姿、そして心にしみ
る文面に触れ、私なんかの出る幕じや
ないような気がして気後れしています。

㉕参加する。

⑬「わいふ」を手にする度に「私も居眠
りばかりしてはいけない」とは思
うのですが、特別に影響を受けたとも
思えません。残念ながら……

㉖特になし

⑭働きのながら前向きな生き方をしてい
らっしゃる方々の生活が伝わってくるよ
うな「わいふ」でした。

㉗変化なし

⑮「わいふ」を手にする度に「私も居眠
りばかりしてはいけない」とは思
うのですが、特別に影響を受けたとも
思えません。残念ながら……

㉘積極性を学んだ。

⑯「わいふ」を通じて勉強したいです。

㉙変化なし

変ってない面―神経質

⑨12年前―育児から解放されて自分の自
由時間を得ること。有り余る程の自由
時間を得たが以前の様な物事に対する
情熱・機敏さを失ったと思う。

今―長男が現役で大学に入学する事。
むつかしい状態。

⑩昭和48年12月末
朝日新聞に紹介された記事により

⑪投稿者の方々の積極的な姿勢に啓発さ
れた感じ。

⑫特になし

⑬積極性を学んだ。

⑭特になし

⑮参加する。

⑯「わいふ」を通じて勉強したいです。

⑰でもやがてはお手伝い出来るようにな
りたいと思っています。

⑱12年前育児に追われていた頃「ああ
自分の時間が欲しい」と切実に思っ
ていた。現在ある程度その自由時間もあ
るが活用はしていない。年毎に、何かし

⑲働きのながら前向きな生き方をしてい
らっしゃる方々の生活が伝わってくるよ
うな「わいふ」でした。

⑳誠心で消極的であれながらもどかしいの
ですが、なし。

㉑ありませぬ。是非どなたかよろしくお願
い致します。

㉒変化なし

㉓積極性を学んだ。

㉔特になし

本が読みたくなくなります。

⑦昭和49年9月に40才にして生れて初めて300メートル級の北アルプスの立山を縦走したこと。結婚前身体が弱かったので、一生の間に東六甲（932メートル）を縦走出るようになればと願っていたが、それは七年前に願いを達してしまいました。『山男』にしこまれたとはいえ、自分がこれ程丈夫な『山女』になれるとは思ってもいなかったので感無量。

社会的―昭和44年7月、人間がついに月世界へ到達したこと。これは科学的進歩に驚いたという意味ではなしに、人間の普遍的無意識をゆさぶることなので。これからの人間がどう変化するかという意味で印象的でした。それに地球という惑星に住んでいる人間だけの出来事ではなく、宇宙の中のちょっとした出来事でもありますので。

⑧変わったところ―心身共に強くなったこと。

変っていないところ―大声で笑うこと。高校の時「ワハハの君」などといわれたが、今だにおかしいことがあると、お腹から笑ってしまいます。そろそろ、トシなのだからと思いつながら、わがつれあいも一緒になって笑っているので変りそうもありません。

⑨丈夫になってライフワークを続けたいということ望んでいましたが、大体思いどおりのことをしております。

これからも健康で人生という『山』をじっくり味わいながら地に足をつけた歩みを続けて行きたいと思っています。

⑩昭和39年秋だと思えます。「暮しの手帖」に松田道雄氏が「わいふ」のことを書いておられたのをみて早速入会しました。発行一年ばかりしかたっていないが当時のわいふはザラ紙にガリ刷りでした。

⑪いろ／＼な女性がそれ／＼の考えを書きあらわしており、実際に会えなくても心の中で話し合えたこと。

⑫わいふの発刊の動機が「自分たちのため」であり、それだからこそ今まで続いて来たとも考えられますが、自分たちに必要性がなくなれば、それが終りとなる点。このことは、もっとも他力本願の会員（私も含めて）の責任も大なりですが、何故か、もうひとつなじめないところがありました。

⑬平凡なことでも続けることに意味があることを毎月の「わいふ」を手にする度に感じておりました。こうして昨年まで毎月欠かさず発行されたことに……でもその平凡なことが、実は大変むづかしいことでもあるのですね。わかりきったことでありながら、人につくす“この意味を考えさせられました。

⑭特になし。
⑮内容によっては参加します。

【回答36】

⑩48年末、朝日新聞紙上ににて。

⑪同じ目的を持った人たちと連帯の輪をつなぐことができたこと。

⑫こんなところで「国際婦人年なのに」廃刊になるなんて。

⑬「書く」ということは捨てません。何らかの形で自分の考えを発表する場づくりをするつもり。

⑭あります。

四月中旬「特異性右眼網膜剝離」のため京大病院（地元眼科医を経て）へ入院、手術を受けること三回。6月24日帰宅したところで、これからいろいろな事を手がけたいと思っているところです。

【回答37】

①41才

②長男、長女の出生、姑との同居

③なし

④なし

⑤特になしが肩こり腰痛が起る。

⑥子供の成長と共に、児童書、絵本などに関心をもって見る。

⑦私的―二人の子どもの出生
社会的―ベトナム戦争
インフレのひどいこと。

⑧変わった面―人間の生き方について考えるようになってから、衣食住などの細々したことに余り神経を使わなくなった。

変らない面―生きながらにして生まれ変わりたいと努力するが、なかなか性格など変わらないものだ。

⑨ちょうど12年前教員を退職した。絵（

日本画）の勉強をしたいと望んでいた。12年前からたいした進歩はなかった。

むしろ描くことも少なくなった。現在も同じことを望んでいる。しかし絵は展覧会に出したり、人に見てもらって賞めてもらうものでもないことを知った。色紙一枚の中にも、大自然を描いていきたいと大きな夢をみている。

⑩創刊当時から。「わいふ」参画者に勧められて。
⑪「書く側」に回れば、もっと良かったのになあ。けれど、多くの会員さんが、あちこちで地道に根気よく活動をしておられるのを知り、力強く思い、また励まされた。

⑫これは性質上仕方ないが、会員同志の会う機会が少なかったこと。地域別に小さな会をもつて、つながりを深めていきたくかった。だから「わいふ」会員の中から親友が得られなかったこと。

⑬特に具体的にはない。
⑭一年に一度でもわいふ会員の近況を知らせようなど発刊利かがないので、⑮誌代値上げなどあっても、意義は大いにありと思うが、残念ながら、読み手にばかり回る私は、参加する資格がないのではないかと思っている。

【回答38】

①37才

②4人↓5人

③なし

④1回 住宅建築のため

⑤視力がおちた。スタミナがなくなった。



⑥文学書が多かったが、言葉に関する書物、歴史ものなどを読むようになった。

⑦親友の突然の死

新聞には報道されない教育界の内部の変化(一種の思想統制的なしめつけ)。教師をしている姪から現場での問題をきいて。

⑧自分に自信がなかったので混乱することも多かったが、自己認識が少しずつ出来るようになったこと。

変らない面—計画性のないこと、決断力のないこと。

⑨自分の能力にあう仕事をみつけないと思えば、私的に塾的なものをしてきたが、限界を感じ、後めたさのようなものもぬぐいきれない。

公的な場で英語を教えること。

英語圏の人々に親しまれている英語の童謡を日本人的な視点からみて、色々な角度から研究すること。展望はどちらも未知数です。

⑩今から六年前

友人にすすめられて

⑪会ったことのない人でも文章を通して共感が得られた場合、連帯していることを感じられたこと。また、雑誌を手にとる時、安らぎを感じたこと。

⑫書かれたものに対して誌上での討論などがなかったこと。そのために、一つの問題を皆で取りあげていけなかったことが残念でした。

⑬会員の中で多くの人達が確実に自己を確立し、自分の人生に展望を持っていることを知ったことで、私もがんばらなきやあと。

⑭中津燎子さんを中心とする「おふくろの集い」に当分の間参加しながら、自分出来ることをみつめていこうと思う。

⑮参加する前にいまだ一度考えてみたいと思っています。

◆

【回答39】

①37才

②夫婦2人↓4人(子供2人加わる)

③なし

④2回 アパート→公団住宅↓自宅(新築)

⑤体重2kg増加、全て腹部のところに集まり中年ぶとりらしい。

⑥最近気軽に読めるような本を選ぶことが多い。

⑦私的なこと—長男、次男の誕生。やっとなされた子供がABO血液不適合で交換輸血をしたこと。(亀山利子さんの「克郎くんの記録」感激すると共に胸がしめつけられる思いで読みました)

社会的—人類が月に着陸したこと。

⑧非常に記憶力が悪くなり物忘れがひどくなったこと。老化現象だと悲しくなります。結婚後ももう少し頭脳を働かせるよう努力すべきだったと最近反省しております。

⑨子供に恵まれて、仕合わせな家庭をつくることを望んでいましたが、やはり育児の難しさを味わいながら、どうにか現在まで生活してまいりました。子供が親から離れて生活するようになることを考えて、その時淋しさを少しでも軽くする為、家にとじこもらず、外に

出て働きたいと望んでいます。

⑩十年程前で、友達の勧めで入会。

⑪同年令の会員の社会的、個人的な考え方、生活態度、育児に関すること全て参考、刺激になり、本当によかったと思っております。

⑬具体的には書けません、各会員の報告や考えなど大変参考になり「ぬかみそ教室」も勉強になりました。

⑭なし。

⑮参加します。是非お願いしたいものです。

◆

【回答40】

①37才

②夫・長女(小六)長男(小二)

③S 35・4 ↓ 38・3 アナウンサー

S 39・8 ↓ 現在 日本語教師

④S 37・5 結婚以来、仁川団地に居住、現在に至る。

⑤体重—結婚前42kg 結婚後47kg 視力変化なし

⑥結婚前—外国文学、日本文学、詩集など。わいふを知ってから—わいふ仲間

に啓蒙されて、社会、政治、歴史に関するもの、いわゆるノンフィクションのものに。

現在—言語学、国語学関係の専門書

⑦私的なこと—大学院入学(昭49・4)

社会的なこと—大きな出来事がおこるたびに、その都度怒ったり悲しんだり

してきたけれど、私の生活に大きく関わってきた実感に乏しく、今印象的出来事

といえるものなし。

(2)自立ということ

(3)一人の人間としての生き方の自覚

(1)(2)(3)は、私の精神の内のもので生活形態は変化なし。

⑨すばらしい家庭の創造—家庭生活の平和の中にのみ人間の充足はない。

目前の修士論文の完成。

⑩「奥さま新聞」紙上での呼びかけ、高木さんを訪ねてその場で会員に。

⑪保育所づくりなど、具体的な運動に参加でき友だちを得たこと。

文学少女だった私が、少しでも社会に目を向け、自分をもつめるきっかけを得たこと。

⑫特になし。積極的参加でなかったことを反省している。

⑬いろいろな個性をもった女性と出会い、私の生き方の方向づけを知ったこと。

「わいふ」を知り、保育所づくりの運動に加わったことで、再就職にもちゅうちよなくとびこんだ。「わいふ」に出会わなければ、今の生活と又ちがった生活をしていよう気がする。

⑭今やりかけていることに集中するつもり。

⑮しばらく休みたい。



私と国際婦人年

—女についての言葉に思う事—

宝塚市 辻 幸子

或る作家の話に依れば、女という語を表わす言葉は七百余語もあり、男の場合には、その昔にもみたくないということである。

古来から男の恋心は、女を美しく讚美し、豊かな表現力を生んでいったから、そうなったのかも知れない、というのはひいきめな見方で、ずい分悪口めいた言葉が多いのではあるまいか。褒め言葉はさておき後者の言葉を問題としてみたい。

女のつく漢字は悪い意味をさす場合が多いのは、何故だろうか。漢字の生まれた国、中国の人達の女性観になにか原因があるのだろうか。私には良くわからない。

私達が、ふだんなにげなく使っている言葉の中に、女を表現する言葉は、男を表現する言葉に比べて悪い意味をいい表わすというか、皮肉な表現、揶揄的、嘲笑的な表現が多く見受けられるように思う。

この場合、一般的に言つて良い意味、悪い意味というのは、社会通念に依つて言われることを言う事にする。社会通念というのは「社会一般に通用する常識と

いう程の意味で、固定的な観念ではなく、社会の日常生活の中で形成され変化していくものであり、法と日常生活の架橋の役割をする。」といった意味においてである。例えばどんな言い方があるか、以下

思いつくまま言葉をあげてみよう。
売れ残り、片づく、嫁にやる、嫁をも、らう、嫁のもらいてがない、きずもの、女の腹はかりもの、(女を)ものにする、女をかう、出もどり、捨てられた女、飲む打つ買う、嫁とり、

これらの言葉にみられる特徴は、女の物扱いを端的に示していないだろうか。男性が結婚するという場合に使う娶る、という漢字があるが、なにか便利な財産を加えるといった感じがする。そのような感じを受けるというのも、女の側からみた場合であつて、男の側からみれば、歴史的な事実であつて、当然の事で、悪口でも、差別でもなく、女の物扱いは、今にはじまつた事ではないので、しごく

当然の事なのかも知れない。
淫婦とか淫売とかいう言葉があるが、みるからに汚らしいイメージがうかぶだろう。その意味するところ、みだらな女、色を好む女とあるが、そのような男を表

わす言葉、淫夫なる語などない。女誑しとか好色漢とか好き者、助平などとあるが、少し意味が異つたり、滑稽なイメージを持つていて汚らしい感じではない。性に関して女だけにみだらなという表現があるというのはおかしいと思う。他に適当な言い方があるのかも知れないがわからない。淫売とはひそかに性を売るという意味なのだが、売春とはいうが買春とは言はない。何故売られた性が汚らしいのか、売るのが汚ければ、買うのも同じ筈であるが、社会通念としてはそうではない。

社会的な常識として性を売るのは良くない事であるというのは共通しているが、性をかうのは世間では容認されている、大目にみられているのが普通のことである。

そこには性の商品化があり、商品となるのは女の方で、買手つまり人は男である。又もや人と物の関係がある。「男の浮気は男のかい性である。」という考へ方は今も生きているし、女の浮気は、姦通罪が存在した事もそう遠くない時代の事である。今はそのような罪状はないが、社会的批難は女の方が多く受け、男には大変ゆるやかであるという男用、女用の性道徳が通用しているのである。三

面記事の報道のし方によく表われている。節操、貞操とある。貞操とは女の操という事であり、男の操とある。貞操はみあたらないようである。貞婦、操の正しい婦人、貞女という意味だが、勿論男に言う

同じ意味の言葉などない。むしろ男同志の間ではそういう男性がいるとすれば冷笑をかうのがおちではなからうか。愛の狩人をもつて自認する、本質的浮気者たる(?)男の辞書には、貞操などという言葉はないのであろう。

男の理想であるらしい多くの妻を持つという(過去の権力者は例外なく)いい程後宮を持ったから)一夫多妻制の婚姻制度の歴史が長かったから、男の自由は認めるが、女の自由を認めない、貞操を要求するという考へ方が強く尾を引いていて、現在一夫一婦制の社会になり結婚は性的独占、男女共の操の誓いでもあり、社会の秩序もそれを要求している、過去の社会で、男にとつて大それた都合のよかつたモラルを、現在の社会においても通そうとする男の主張を持っている言葉とも言える。(貞操が、女の操である限りにおいて)

ともあれ、日本の歴史では、男の放蕩をゆるし、女にはかり酷しい貞操を要求した儒教的倫理感が伝統的に残つており、今も命脈を保ちつづけているということだろう。果たして、それでよいのだろうか。

江戸時代に、女子教育の為に著されたという「女大学」も、過去のモラルと化してしまつているとはいえない。

三、従のおしえ
幼にしては父に、嫁しては夫に、老いては子に従うというおしえ
女、三、界に、家なし
女、三、年子、なきは、去る、
婦人は別に主君なし、夫を主人と思ひ

三、従のおしえ
幼にしては父に、嫁しては夫に、老いては子に従うというおしえ
女、三、界に、家なし
女、三、年子、なきは、去る、
婦人は別に主君なし、夫を主人と思ひ

敬ひ慎みてつかふべし。

今も、夫の事を対外的に呼ぶ時は、主人と言ふのはごくあたりまえの事である。

男女平等のたてまえからは、主人と言ふのはおかしいではないかという意見もあるが、現状の結婚の実態は、多くの場合、妻にとつては夫でもあるが、やはり主人なのである。男性は己れ自身が、自分の主人であり得るが、妻となつた女が、そのようであつてはバランスが保てない結婚が世の大半を占めている。そうであれば、いくら言葉を言い替えてみても夫は主人である事に変わりはない。「女大学の昔から社会体制は変わつても夫が妻にとつて主人である事に変わりがない事」を示している言葉である。夫を主人と呼ぶのが死語と化した時、どんな意味にしろ、結婚の意味が変わるのだと思う。

鬼、バ、ア
という言葉があるが、鬼ジジイというのは、好々爺という言葉はあるが、反対のはない、これは、これまでの女の生き方が抑圧的で、無理をした生き方を示いられてきたからではないか、という事を羽仁進氏が言つておられたが、ほんとにそうだと思う。

未亡人（いまだほろびざるひと）
貞女（二夫にまみえず）
後家のがんばり、
といった言葉も意味がありそうである。一般的にいって配偶者の死亡は婚姻の解消事由であつて、もはや配偶者はいないとするものが、法律的な考え方で、これは男性のものであるようだ。女の場合、貞女（二夫にまみえず）の考え方が、世間には

充分生きてゐる。経済的に力のある男性の場合、年令を越えて、再婚はたやすいが、女の再婚はむづかしい。この場合は社会通念よりもつと女の宿命的生物学的理由（若い程良い）に帰するところが大きいけれど。
お古をもらう、
という、女にとつては屈辱的でさえある言葉も生きてゐる。
未婚の母、縁遠い女、
オールドミス（今はハイミスに言いかえられてゐるが）
ゆかず後家、売れ残り、
などの言葉にみられるのは、結婚をしていない女は社会的にみて不安定な存在というか一人前の扱いを受けないような感じさせる。この場合は男も同じように、世帯をかまえていないと、社会的に信用がないといった見方もあるが、女の場合程風当たりが強い。最近新聞などでみかける「わだつみ世代」と言われる戦争によつて独り身を余儀なくされた女性達にとつても社会は全く冷たい。低賃金還元される事のない税制、低福祉の為老い先の不安などをかかえているにも関わらず冷遇され続けている。このような扱いを受ける考え方の基になつてゐるものが、先に言つたような意味で社会通念としてあるからではなからうか。

から、理解できるだろう。お嬢さんを育てていらつしやるお母さん、くれぐれも禁句でせよ！男を、うるといへば、男が男に惚れられる状態で、女をうりものにすれば女の甘えをついた言葉だ。男にしてくれとか男になるといへば、義理や面子を立てるといった意味に使われるが、女の場合、全くちがつた性的な意味を持つてくる。よく言われる男らしくない、女らしくないという言い方にしても、この場合どちらも良くない意味を持つのは同じだが、少しばかり異つてくる。男らしくない男といへば、女性的な男というか、女々しいとか女のくされたようなとか言う言い方をし、男をけなす言葉にも女がでてくる。女らしくない女といへば、女だてらにとか女のくせにとかいう意味で使われる事も多く、おてんば、はねっかえり、じゃや、馬なども女らしくない言葉の仲間だろう。行動の抑制といった意味が含まれるのは「女はただ和きて、貞心に情深く、静なるを淑とす」の「女大生」が生きてゐるのだから。

男には言はない女にしか使わない言ひまわしもよくある。
女子と小人養ひ難し、女房と畳は新しい方がよい、牡鶏ときを告ぐれば国滅ぶ、女さかしうして牛売りそこなう、女と馬鹿につける薬はない、カー付家付、ババ抜き、尻軽女、職場の花、女子供炊きころび、三食登覆付永久就職、かかア天下（亭主関白とはニュアンスが異う）
もつと沢山あるだろう、他に思い付いた方が書きたしてみても下さい。

家庭に入るという言い方も男性にはしない表現のひとつではないか。キャリアに就きたい女性が必ず遭遇する難関、結婚をとるか、仕事をとるかで悩むのである。結婚相手の考え方に大いに作用される。男性には先づない考え方だろう。男性にとつては、仕事も結婚も両立して、当り前の事である。同じ人間の生き方として大きなへだたを感じざるを得ない。よきにつけ悪しきにつけ、男性にとつてあたり前のことが、女性にとつてそうではない事が多い事の一例を示した言葉ではないだろうか。
女は子供を生んで一人前、という言葉は、先に言つた結婚しない女を冷たくあしらう考え方につながつてゐるが、このようない方も男性には言はないのではあるまいか、男にとつては社会的存在としての男の能力を示す言葉でしかないが、女にとつては生理的、動物的存在の完成をさすようだ。



むという肉体的機能に規定された何か共通したものが導き出されるような感じを言うようである。

結婚し家庭を持つというのが、これまで普通の女の生き方であったから、そのような枠のようなもの画一性のようなものが女のしあわせ、生き方だといったような考えがあるようだ。だから、そのような枠外の生き方を求めたり、そのようなしあわせを得られないかのような考え方をしがちである。とりも直さず、女の生き方とはこのようなものだといった枠付規定された考え方が社会通念として色濃く残っている言い方ではあるまいか。女が特別扱いをされる表現もある。

女史、女流○○といった言い方がそうである。女史という言葉は、おほし召しがい、とか聞こし召している、といった丁寧な表現で軽蔑や皮肉を表す言葉に近い印象を与えるようだ。最近の新聞では女史という表現を控えて、○○氏としているのもみかける。

老婆を老女に言いかえたのも新聞用語からだったと思う。

女医、女優、女教師、などはまだしも、役職名や管理職名などに女がつくのは、ただだけない。例えば、女首相、女大臣、女議員、女○○官、女社長、女課長、などである。

サッチャー女史、英国初の女(女性)党首、なんて記事はみななかっただろう。新聞も最近では似てきたが、週刊誌のタイトルなどは、なりふりかまわぬから、女○○が、さかんに登場する。枚挙に

とまがないが、この間も、「黒田、美濃部は女が勝たせた」なんてタイトルは、有権者をバカにしているようだが、又そこがねらいだったのかも？、戦后強くくなったのは女と脊下だそうだが、マスコミの興味本位の造語も、女を差別的に扱う傾向があるようだ。テレビのコマーシャルコピーなどは、子供の言葉にすぐ入りこむので、造り出す側の一考をうながしたいものだ。一方では差別語と言いかえが話題になっていようだが、女中をお手伝いさん、BG(ビジネスガール)をOL(オフィスレディー)に言いかえたのが有名であるが、女中もお女中と言われて丁寧な呼びかけ語であったと聞く、女房は宮廷につかえた女官から発した語が、現在のように変化してきている。言葉は流動的なものであるから、言い方だけをかえてみても中身の変化が伴はないねば生きた言葉にはならないのではないかとと思う。

言いかえたからといって言葉の生まれした土壌、言葉を使う人々の意識、社会風潮というものは一朝一夕には変らないものだ。人間の頭の中ではカタチや迷信はこわせても、意識、感覚、風習、習慣、慣習は、急にはこわせないものだ。だから言いかえる事に依ってだけでは、このような言葉が生きている現況が変らないのは明らかかなことである。

言いかえる事によって、言葉の生まれる基となる社会通念が消え去ってしまったかのような錯覚をしてしまうことになりはしないだろうか。それではかえってマイナスである。

「差別用語として追及されそうだとわさされる言葉を次々に禁句にして使わないでゆく中には、差別そのものの実態を見まいとする精神がかくれている。言いかえをひろげてゆく方向は、差別をなくす努力のめざす方向ではない」と土方氏はおっしゃっている。

私が、ここにあげつらねた言葉は、言いかえの禁句集にあるかどうかは知る由もないが女の側からみれば、言葉の基となっている社会通念は女の差別を生んでいるといえないだろうか。いや当の女自身のことさら差別を受けていると意識していないのではないかと思う。まして社会のたてまとして、或は理想としては、法の下には平等であるのだから。「言葉の違いは精神の違いです」という考え方に立てば、わづかな言葉を手がかりにしてではあるが同じ人間同志なのにどうしてこうも考え方のひらきが生じてしまったのだろうかと思う。しかし、悪女というそのものズバリ悪という漢字の付く言葉には男にとって、いちがいに悪い意味ばかりをもつともいえないのだから人間の不可思議さがのぞいているようだ。

【表紙絵の言葉】

紫陽花

神戸市 平田 恵美子

しとしと小雨の降る露地で、ひとり、あじさいだけが、華やいています。雨に

咲く花と呼べましようか。

この花は、白から青、そして赤へと変わっていくのが特徴とされていますが、私の観察するところでは、必ずそうでもないようです。開いた時からピンクのものもあれば、淡い青、また目の覚めるような鮮やかな紫の花も見られます。どうも品種や、土質、肥料に関係があるようです。

もう十年程前のことでしたか、あの六甲山の見事なあじさいの花は忘れられません。また鎌倉に、二千株ものあじさいの植わった庭を持つあじさい寺があると聞いています。きつとすばらしいでしょう。日本原産のこの花は、古くからみんなに親しまれ、歌にも詠まれていました。萬葉集にも、あじさいに寄せて詠まれた一首があります。

紫陽花の八重咲く如くやつ世にを
いませわが夫子見つしのはむ
やわらかく大きな手まりのような球形の花は、豪華で、その反面、素朴な味わいを見せてくれます。

日本国中の梅雨のうつつうしさを晴らしてくれるでしょう。

霧の中から、くつきり浮かび上がってくるような「がくあじさい」。雨の中に立ち止まっては、しばらく見とれてしまいます。今月は、この花を写生しかけました。けれど、この花になりきれない私には、とてもほんとうの写生などできる訳はないのです。花と私が、一つになれるのは、いつのことでしょうか。



最近気になる事

神戸市

小川 倍恵



東大出のエリート銀行員が身障の我が子を八日間もの間水一滴も与えず餓死させるという事件がありました。

指をすってすって皮がむける、そのチューチューという声を聞きながらそばで読書をしていたという。どういう神経の持主なのでしょう。その時点ではこうしてやる事が、この子にも家族の為に一番幸せなのだと思身自身にいきかせての行為だったとは思いますが、それにしても、よくもこのチューチューというあわれな声に耐えられたものだと思います。この薄情な思いやりのなさ、利己主義、これがエリートコースを歩んできた人の典型なのでしょう(言いすぎでしょうか)。

この事件を掘り下げてゆけば、今の政治の福祉対策に問題があるとか、世間の偏見がその行為をたらしめるとか、脳性マヒ者横塚氏談による「なのおらかなおらないか、働けるか否かによって決めようとする人間に対する価値観が問題である」とか、いくらでも原因はあると思います。価値観とか何とかになると私にはむずか

しくうまく言えませんが、この父親の行った行為は様々な問題を含んでいると思います。手で締め殺したのではない、あくまでも自然死を待ったという、殺していないという罪の意識があまりにもない。

×××の要領で我が子まで消してしまおうとは高等数学を解くと同様の計算上の殺人のように思えるのです。エリートコースを歩んだ人すべてがこんな薄情な人ばかりとは申しませんが、現代の学歴偏重主義社会では自分さえよければ友達までもけ落している大学に入ろうとする利己主義者があまりにも多く、他人への思いやりの心はうばわれつつあります。こうしたいわゆる計算上手な頭のいい人間が出世する、政治家になる、そして社会にのさばると思うと、将来がとても不安に思えてなりません。今の学校問題即この事件という程のかかりはないにしても、私には隠れた部分で密接な関連があるように思えてなりません。

塾の問題、入試体制問題等すべてがよい大学をめざしての事です。教育改革とか色々理想論が述べられていますが、私の素人考えでは大学入試は簡単に卒業試験を厳しくする方法をとる事が一番望ましいと思います。

この都会に移転して来て半年、長男が小学校に入学して三ヶ月。田舎にいる時は塾なんてきらい、自由に遊ばせてやりたいと思っていた私も、既成の、冒険も出来ない、子供にとっては全く変化のない公園で毎日毎日遊ばせているのはかわいそうだと思うし、塾もどうしたものかと、環境、状況変化に伴い色々思案中

です。身障者問題から我が子の塾の事まで話は変わってしまいましたが、こうした諸々の事が気になる昨今です。

めはる

(私のまわりのPTA)

愛媛県

平山 久子

私の住む町では父の日に当る日曜日、町議会議員選挙の投票日です。二十数名の立候補者が、連日、最後の最後までをくり返しています。学校教育の向上発展と子供達が健全に育つ社会環境の改善に微力ながら頑張ります、とマイク片手に主婦に語りかけるのは、小学校のPTA会長、三期目をめざしています。

この四月、はじめてPTA総会に出席しました。去年からのかわり合いだったのですが、下の子がやつと歩きはじめた頃だったのを口実にさぼっていました。会則を手に入れ、私は子供の入学と同時に会員になっていたことを知りました。何号か前のわいふに、高木由利子さんが日教組が出しているパンフレットによる「正しいPTAかどうかの判定法」を紹介してくださっていました。その一つ、あなた自身の意志でなく、子供の入学と同時に自動的に会員になっていませんか。さて私もPTA診断をしてみる必要がありそうです。

総会では決算報告、行事報告などと共に新役員を選出が行なわれましたが、会

長は昨年引続き再任されました。後で聞いておどろいたのですが保護者側には黒一点のこの方、一人息子さん(今年六年生で六年連続会長さんといえます)から来春は息子さんとごいっしょに卒業証書をいただくつもりかもしれませんが。ご本人いわく、今年は何としても辞退したかったのですがみなさまがぜひとおっしゃるので。そのみなさまとは、地域ごとには選ばれた部落委員のこと、実は会長は我々が選んだ委員によって推薦され平会員には総会ではじめて知らされ、その席で承認するような形式になっているのです。彼もその気になっていらしたし、誰が反対しましょう。

長期の就任に何の意味があるのだろうか。多くの人が役員を経験することこそ活動のマンネリ化を防ぎ会員からの分離を防ぐであろうに。行事報告には毎月の参観日の他に県研究大会、郡総会、区連絡協議会、指導者講習会、研修会と役員の外への出張も多くなかないそがしい。(因に研修費、県都区への負担金、旅費などで予算の27%強を占めている)他校の校長や会長と顔馴染みであることが有益であり、我々PTAにとって名譽と考えているのか、ふだんは母親ばかりの集りであるのに会長は地元の有力者という発想につながってしまう。母親自身、立派な方におまかせしておいた方が安心と極めつけている態度こそ、PTAを毒しているように思えるのです。

平常学校とも縁が深い母親達が役員である以上、代表もその仲間であるべきです。行動範囲もそれに見合った無理のな

い参加でいいのです。だからといって父親を放っておくことはありません。広い視野を持つ社会人として教育現場のひずみを指摘できる目を持ちながら、それを充分利用できないのは残念です。ところが我が校PTAでは校庭の夜間照明のもとで「父親ソフトボール大会」が実行されているのです。大会前のほんのわずかな時間を子供の教育のための話し合いにしようという動きが芽ばえたら、母親達にとってもどんなに心強いでしょう。応援を兼ねて今こそけしけるチャンスではないかと考えています。そこに本当の会長を見つけたらと思うのです。

本年度PTAの努力目標「がまん強くがんばる子供、感謝をし、あいさつや親切ができる子供を育てる」昨年度はたしかわいふにも紹介しましたが、「好ましい社会人として気力や実行力のあるたくましい子供の育成」これらをもて感じるのは、子供に対して先生と親が寄ってたかっておしつける態や学習態度の問題ばかりで、本当に知りたい学校教育のことには触れていないのです。教育の本身を考え合い会員全体の意思を反映し得るPTAとの関係こそPTA本来の姿だと思うのです。が、お互いにそれを避けているのでしょうか。子供をおあずけしている学校への関心事は第一に「教育」です。

教育の場である学校のことを何でも知りたいのです。親が望んでいる教師像や学校をとりまく環境の話題があってもいいし、先生方の職場の問題を我々にも話してほしいのです。いっしょに考えたいのです。こうして先生と親とが語り合い

行動する姿こそ、子供に好ましい社会人とは——を見つめさせ、おしつけてない蝶を身につけさせるはずで。

蝶と野鳥を呼ぶ木

宝塚市 高橋 ミチコ



我家の庭に一本のびのびと育った木があり、他の木々を見おろしているが、これがトウモロコシの木。そして蝶と野鳥を呼ぶ木。

七年程前のこと、当市の植木市で、沢山の美しい植木の中に、一本だけこのトウモロコシの木がうす汚れた鉄道の荷札をつけられて、くたびれ果てた姿で置かれていた。荷札から推察するに、何かの都合で返品になったものらしい。

なぜか、夫も私もそのトウモロコシの姿に心がひかれて、それを求めることにした。一五〇円也とのこと。いくら返品とは言え、当時でも約二メートル位の高さになっていたので、その安いことに驚く。見放されたような安値。

なにしろ、すでに葉はぐんなりしていたので、無事に根付くかと心配したが、その後すくすくと伸びて、今では数メートルの大木となった。

トウモロコシがどんな木なのか、何も知らずに求めてきたので、それが今のような楽しみをもたらしてくれるとは想像もしていなかったのに……。

毎年、初夏になると、香りのよい小さなクリーム色の花が沢山咲き、その香り

にさそわれて、アゲハ蝶（普通のアゲハにキイアゲハ、アオスジアゲハ、カラスアゲハなど）が次から次へと集まってくる。

一度に十数匹のアゲハ蝶が、乱舞しながら蜜をすう姿は、息をのむほど美しい。そして冬になると黒い小さな実がたわわになり、今度は、ヒヨドリ、ツグミ、メジロ、ジョウビタキなどの野鳥がとんで来て、せっせとその実をついばんでいる。

七年前、「誰か私を早く土にもどして下さい」と言いたげだった、あのあわれな姿のトウモロコシが、私たちにこんなよろこびを与えてくれるとは……。

今、トウモロコシは花の蕾をつけ始めています。そして、その根元のまわりには、野鳥のたべのこしの実か、糞の中のかなかなか、芽が出たトウモロコシの実生が、そこここに生えて来ている。まだ生えただばかりで二センチから五センチ位だが、これもいつかは、蝶と野鳥を呼ぶ木になるのかと思うと、みているだけで、ほほえましくなる。

我家の庭はすでに満員なので、これ以上、トウモロコシを育てる余地はないが、ど

こかへ、どなたかへ、もらっていただけたらと、小さなトウモロコシのこどもを植木鉢にうつしかえて育てている。（花が咲くのは何年先かしらと思いがち。）
そして、我家のトウモロコシも、近くの山々が、高速道路や住宅になり、食糧不足の蝶や野鳥たちのためにも、そして私たちのためにも、遠慮なくどんどん育てたいと願っている。

その後も植木市へは何回も行ったが、あとにも先にも、トウモロコシの木は出品されていない。我家へ来たトウモロコシ一本だけとは。トウモロコシとの「出会い」が感慨深く思い出される今日この頃です。

【お便り】

神戸市 小川 倍恵

新緑の季節となりました。編集部の皆様御忙しいところを、いつも御苦勞さまでございます。

わいふ廃刊の知らせを聞いた時から、何とかしていただかなくてはと思いつつも失礼してしまいました。一三四号には沢山の方々の廃刊を惜しむ声が寄せられておりましたが、私も全く同感です。私はいま表現出来ないのが残念ですけれど、例えば天皇制の問題にしてもあの様に誰でも意のままを発言し、そのまま載せてもらえる。今どきこんな人間の本心そのまま伝えるものがどこにありまじょうか。テレビでも何でもとかくきれいで片づけられてしまわれがちです。天皇に対する考え方は私もあの方々と同じです。自分の思っている事をズバリ言ってもら

えたようで胸がすっきりしました。
「ちょっと、ここだけの話やけどね。」
と、友と顔つき合わせて腹藏なく話し合
える調子で遠方の方々とも真実を語り合
える、聞ける、それがこのすばらしい「
わいふ」だと思っています。

日比野さんの「天国のとうちゃん」
のドラマはとても興味深く拝見してお
りました。あの様な話せるすばらしい母親
になりたいと夢みて赤ん坊にミルクを
与えながら見たものです。そして今、そ
すばらしい本もののお母さんの本心を
わいふで拝読する度に感激し一度でいい
からお会いしたいナと思うこの頃です。

あんなえらい方（知名度が高いという
意味に於いて）の本心は私のようなもの
には、もしわいふがなければ、テレビ等
はとうてい知る事は出来なかつたと思
います。わいふの会員にしていただけ
に、あのすばらしいお母さんも同じ
ような考え方を持っておられる事を知
り、もしかしたら私も夢ではなく少し
のすばらしさを見習える母親になれる
かもしれない、なんて自負している
ところ
です。

編集の方々の御苦勞は口には言えない
大変なものだと思いますが、大阪がだ
めなら東京が……。という事でも結
構ですが、又一つは会員が自覚を持
つという意味に於いても、例えば二
年ごとにでも宝塚グループ、大阪
グループ、東京グループ、神戸
グループという班のようなもの
を作つて編集係をまわしてゆくとい
う方法もどうかと思いますが如何で
しょうか。かり版ずりでもよいと思
います。そして

これを機会に会員の横の連結を保つて
自覚を深める意味に於いても近距離
の方々が集つて今後のわいふの事
について話合つてみてはどうで
しょうか。すでに東京は活動が
始まつているとか、この際会員
自身の問題としてこの場をのり
切るよう努力してみようでは
ありませんか。

【お便り】

愛媛県 平山 久子

先月号の能勢はつみさんの「狂育」を
読ませていただいて、真鍋博さんの最近
の様子を知り、なつかしく思つてお
ります。もう高校生になる長男の真君が幼稚園
から小学校入学、二男の由君が生れた
ばかりの時から、歩くようになる頃、私
は先生のアトリエでお手伝いしながら勉
強させていたっていました。

いそがしい毎日でした。ねる間も惜し
んでの仕事ぶりにプロであることの気概
を身にしみて感じ、会社勤めでは味わ
えない満足な気分でした。往復の通勤時間
2時間半あまり、先生の家庭で過ごす
15時間、あとは自宅で食べて寝るだけ
という生活。満足といひ聞かせて、実
はねむることが唯一の楽しみでした。

そんなにいそがしかったのに、今考
えらうと、この時期が私にとって恋愛期でも
あつたようです。帰りにいつも乗る新
宿発11時5分の最終急行に彼（夫を昔
そう呼んでました）は偶然のように、よく乗
り合わせてくれました。
働くばかりが能じゃないという彼と、

仕事オンリーの先生とを目のあたりに、
働くとは、仕事とは、ということをや
いやおうなく考えさせられたものです。
あんまり働かなくてすみそうな、今の生活
を選んでつもりでしたが、家事、育児、そ
して外で仕事もしてみたいと、いそがし
さからは逃れられそうもありません。た
だ都会から離れて静かな瀬戸内で暮し
ていることだけは、私にも、子供にも幸
いと思つています。

真鍋先生、昔の迫力はどこへいつてし
まったのですか。真君も由君も、先生や
奥さまのお考えどおりに成長なさつて
いるはずで。教育パパ失敗談なんて、お
子さんに失礼ですよ、教育費と税金の話
は、まず都庁で。

今、私の子が7才と2才、あの頃の彼ら
と同じくらい。若い時を思い出して、私
も、がんばらなくちゃ。

編集後記

◎ アンケートに御協力ありがとうございました。
7月10日現在で56通集まつて
います。紙面の都合で本号では40通まで
掲載しました。後の分は次号にまわさ
せていただきます。尚、回答まだの方、次
号に間に合うよう急いで御返送下さい。

◎ 6月10日の朝日新聞紙上にわいふ
刊の事がとりあげられ、ご覧になった方
も多いと思います。あの時点でああ
記事が載ることは、編集部としては本
意なこと、マスコミに一言、という
原稿が書けそうな位です。

といひますのは、東京の照井さん、和
田さん、亀山さん達が中心になって、わ
いふをひきついでやっていこうといひ話
し合いがすすめられていて、その見通し
やら、今回のアンケートの結果（特に⑤
の質問）が出るまで記事にしないでほ
しいという要望が無視されて、とても残念
でした。

しかし、東京の皆さん方の御努力の結
果、わいふをひきついでやって下さる見
通しがたちました。わいふがつぶれるの
ではなく、生きのびて発展していけるこ
とをうれしく思っています。

◎ テーマ原稿にとりあげてほしいテ
マをいろいろいただいています。「天皇
制の問題」「国際婦人年にちなんだもの」
「子ばなれの先をいかに生きていくか」
それぞれ息長くとり組んでいきたいと思
っています。

◎ 「ある青春」他残稿が出ました。順次
掲載させていただきますので御了承下
さい。

毎月一回十日発行

原稿・誌代の送り先

〒665 宝塚市仁川宮西町1の72

「わいふ編集部」

発行人 高木由利子

発行所 わいふ発行所

振替口座番号 神戸19515

印刷所 百合写植印刷有限会社

誌代 一部 100円（送料25円）

原稿〆切 毎月二十五日

（以降翌月まわし）